東北電力

'79/11 NO. 232



こんにちは電力です（二本松）

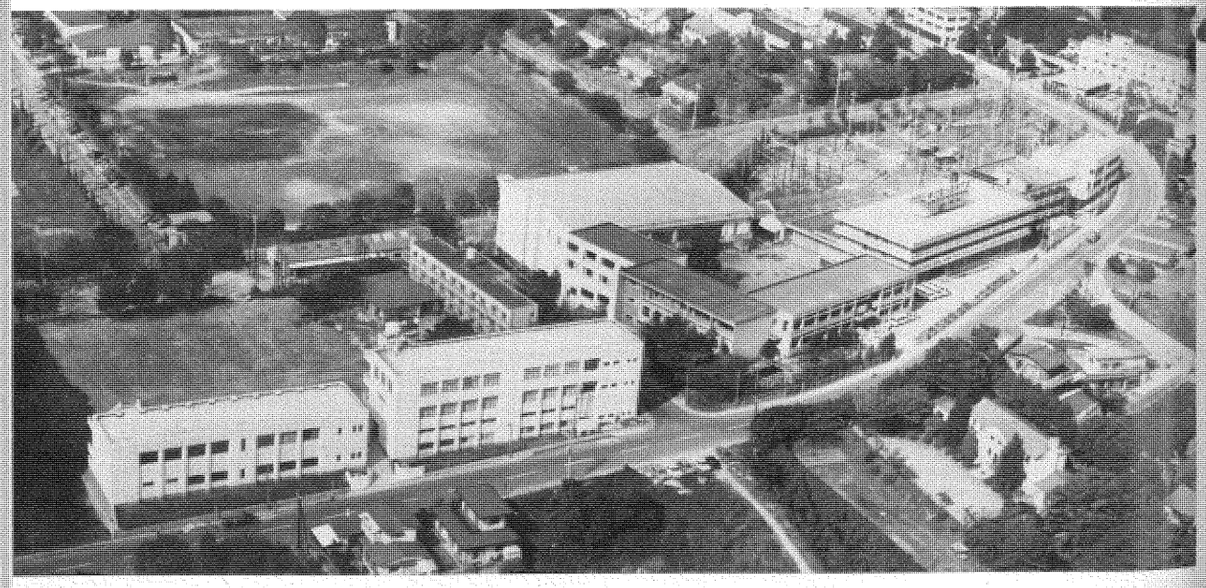
最新の教育施設で

学習・実技に励む

―東北電力高等学園―



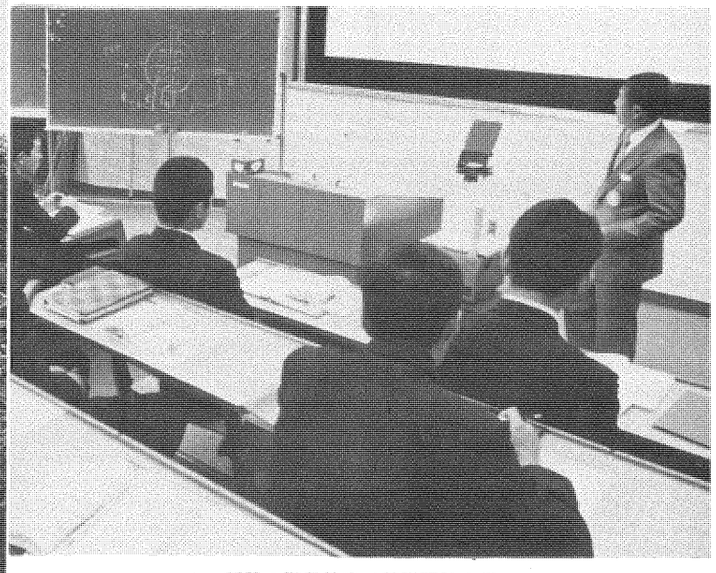
▲　新しく出来た実習棟の前で発変電実習



▲　多賀城上空から電力高等学園を望む



◀　一人前の電力マンをめざして基礎実習



▲　新設の階段教室で基礎理論を学ぶ



▲　作業前のミーティング，目は真剣そのもの

東北電力高等学園は昭和38年５月，社員養成所として多賀城市の現在地に設立されてから既に16年余の歴史を数える。

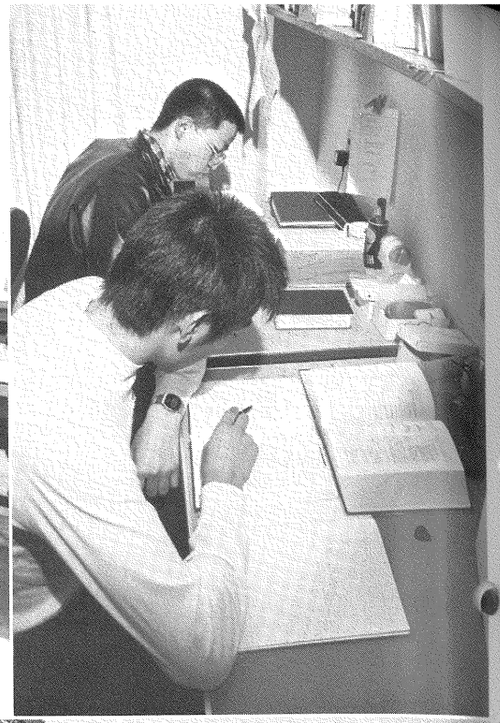
この間，集合教育の期間は当初の１年から２年，２年半，３年と段階的に延長し，その教育内容も職業訓練認定校として，また科学技術学園高校との教育連携校として，逐次質的充実がはかられ，今日に至っている。

このような制度や教育内容の変化に伴う教習人員の増加，教育施設の不足不備に対応して，このたび学園では，寮・教室の増設，実習棟（発変電・配電）の新設，その他屋外実習場施設の整備等大規模な拡充整備工事を実施し，学習環境，生活環境の改善をはかった。

学園生たちはこの恵まれた教育環境のもとで，今日もまた東北電力の明日を支える電気技術者を夢みながら，知識技能の習得と強健な心身の鍛練に，精一杯青春の情熱をもやして頑張っている。



▶ 寮の個室で自学自習





▲ 計測実習のレポート整理

▲ あふれる若さをラグビーにフル発揮



▲ 相手の心理を先に読み取り，技あり一本！



入浴時間は楽しい語らいのひとコマ

社誌・東北電力　11月号　もくじ

今月のことば　＜配電部長　遠藤　文夫＞……4

エネルギー動向と日本経済
―矢島鈞次氏，当面する諸問題を語る― ……6

先輩と語る・東北電力史
―第3回―［只見川の大規模電源開発］
＜全社一丸，火の玉になって＞ ……14

◇需要対策シリーズ⑧　需要対策活動を支える外部団体組織
＜行政機関や消費者団体，メーカー等の協力により＞ ……32

◇海外視察レポート　欧州における石炭火力発電所の実態を調査 ……37
―見直されている石炭の利用―

＜安全と衛生のページ＞

構内走行車両に登録制を導入した仙台火力発電所 ……44

〈対談シリーズ〉　首長に聞く　―柴田町長の巻― ……21

グラビア

◆最新の教育施設で学習・実技に励む　―東北電力高等学園―

◆職場をささえるチームワーク＜鳥越制御所＞ ……27

特別連載エッセイ〝ねっちり男女平等論〟……24
父と娘の対話……26
ホープ登場……31
忘れられない本……43
秋のダイゴ味を語る……48
電力需給概況（54年度上半期）……50



＜表紙…赤トンボの飛びかう秋空のもとで心の輪をひろげる二本松(営)営業課　杉内　弘子さん＞



配電の数字アラカルト

配電部長

遠　藤　文　夫

配電では長年にわたって，上期と年度末には，配電統計を分厚い冊子にまとめて配布しているが，これは実態の推移をよく分析し，適切な管理と適性な計画に役立てるためのものである。

その目的を十分果たすには，日頃から数字に親しみ数字の声，なき声がよく分かるようにする訓練が必要とされる。ある有名な作家が，こんなことをいっているそうである。「中学に入って間もなくのころ正の数と負の数というのを習ったが（負の数）×（負の数）がどうして（正の数）になるのかが納得できず，それにこだわっているうちに授業がどんどん進み，いつの間にか私は落伍者になってしまった」と。

また，数学者である矢野健太郎氏は「音を楽しむのが，音楽であるように，数学は数を楽しんで数楽といえるようでなければならない。小学校の１～２年ではみな算数を楽しんでいるが，高学年になるに従って嫌いな人が多くなってしまう。小学校低学年では，全く自由な考え方をして，しかも正解に達したときの喜びを味っているからである。高学年に進むにつれて，解き方を教えてくれ，機械的に問題を解くようになるからである」というようなことをいっている。

配電統計も落伍することなく自由にいろいろと考えながら見るようにすれば，興味のある事実がつぎつぎと分かってくるので，大変楽しいものになるのではないだろうか。

さて，配電では約4,000人が従事しており，工事費が年間約600億円である。１人当りでは，1,500万円にもなるのである。ある銀行が，大金といえば，いくらぐらいの金をさすか，というアンケート調査をしたところが，1,000万円と答えた人が一番多かったということである。全体の規模の大きさと同時に，１人１人の重さもまた感ずるのである。１人１人が創意と工夫によって１％づつでも節減を図ることができれば，全体では６億円になるが，１人当りでは年間15万円の創意と工夫に相当することになり，非常に身近かに感ずるのである。

配電の設備数は，電柱が約236万基，配電線路の亘長が約10万１千km，そして電線の総延長が，約41万km に及ぶ非常に膨大なものである。地球の周りが約４万km であるから，配電線路は，2.5周することになるし，電線を１本に延ばしてまわせば，10周にもなるという程である。

ただ，ここで配電線路の場合は電線の地上高が平均すると７ｍぐらいはあるので，地球の周りを７ｍづつ高くまわることになる。そうすれば，地球の周りが相当長くなるのではないかというような気がするが，案に相違して僅かに44ｍぐらいしか長くならないのである。このあたりはうっかりすると数字にだまされ易いところであり，用心しなければならない。

ところで，平均の電柱径間は約43mである。これには周囲の条件もあるが，電柱も強化され，電線も絶縁化が進んでいるので，４～５ｍは長くできるのではないかと考えている。そうすれば，約10％の電柱が少なくてすむこととなり，全体では23～24万本に相当するのである。そこで合理的な設計上の配慮が重要となる。

先般，相次いで台風による被害をうけたが配電線の事故は半数近くが気象に原因するものである。天気予報には常々非常に関心のあるところであるが，最近精度が悪く昔から余り変らないのではないかということを気象庁が指摘をうけたとか話題になっている。しかし，天気予報は年間を通じて平均75％，冬季では85％程度当っているが当らなかったときの影響と印象が大きいために，当らないと思われている。

今では各営業所にも風速計が設置してあり，台風が近くなると刻々と風速を観測しながら待機しているのである。配電線ではこの風速計が毎秒25mを越す頃になると少しづつ事故が発生し，毎秒30mを越すようになると規模が拡大して非常災害に至ってくるのが現状である。

配電は何をおいても安全が一番大事である。エジソンは昔，経済性より安全を優先して電圧を100Ｖに決めたといわれている。しかし条件が悪いともっと低い電圧でも，感電死に至った事例があり，「42Ｖは死にボルト」といわれるくらいである。先ず検電することが大事である。

最近，墜落災害も続けて発生しているが，比較的軽かったのは，不幸中の幸いであったといわなければならない。墜落も１m程度で死に至った事例もあって「１mで一命とる」といわれている。安全帯や補助ロープの使用を着実に実施することが大事である。

エネルギー動向と日本経済

―矢島鈞次氏，当面する諸問題を語る―



国内外のエネルギー情勢はイラン政変に伴う世界的な石油需給逼迫やオペックのたび重なる原油値上げにより，極めて厳しい状況に直面している。こうした中で７割強を石油に依存している電気事業は価格と量の面で非常に大きな影響を受けている。

さる10月17日，新潟で開かれた文化講演会において「エネルギー動向と日本経済」と題し，エネルギー問題や経済問題に幅広い見識を有する東京工業大学教授の矢島鈞次氏が最近のエネルギー情勢や経済問題等について興味深い講演を行なった。以下その要旨を紹介する。

講師経歴

大正８年，京都生まれ。昭和17年東京商科大学卒業。現在は東京工業大学教授。アメリカのハーバード大学をはじめ各大学の客員教授も歴任。専門は経済思想史，理論経済学。趣味は読書，音楽，野球，旅行等である。

はじめに

教育面を通した長岡市との関係

ただいま御紹介いただきました矢島でございます。当地と私どもの東京工業大学とは大変関係が深い所でありまして，いま，長岡技術科学大学の学長をやっています川上正光先生は以前は私の大学の学長をやっておられた方であります。また，長岡工業専門学校の学長をやっています大戸先生も私同様，東京工業大学で教鞭をとっており，当地に赴任された方で，そういう意味においても私どもの学校と長岡市というのは，工業の教育を通じ密接な関係にあります。

只今，沢地さんからお話がありましたし，また会場にはたくさんの女性の方がおりますので，まずその蛇足的なところから話を進めたいと思います。

○偉大な強さを秘める女性の愛情

一つは，実は私自身，カトリックの信者であります。それで特に女性の愛情の強さというものを感じたのは，聖書を読んで，そのたった一行の中にたくさんの教えというものが含まれていることを知ったのであります。例えば，キリストが十字架にはりつけになり，そして多くの群衆がキリストに向かって，ののしりの声を発したのであります。そのとき，その群衆の中にまぎれてキリストの母が，ジーッとそれを見ておったのであります。つまり母にしてみると，自分の息子がはりつけになる，できることなら自分が代りたい，そうした気持ちを持たない母親はないはずであります。その群衆の中でしかも息子に対するののしりの中でジーッと耐えているその母親の強さを私はキリストの十字架の構図の中から見出すことができると思います。と同時に，初めからゴルゴダの丘の上に十字架が用意されていたのではありません。十字架のクロスの長い方の縦の棒，あれは角材であります。その角材を裸で足元が石でゴロゴロしている坂道を担いで上がったのは，イエスキリスト自身であります。キリストの肩から血があふれ出，皮が破れ肉が裂け，そういう中で必死になって自分が処刑になる十字架の木を運んだのであります。ゴルゴダの丘に登っていくときに一番苦しい胸突き八丁の所で，名も無いそして職業的には最も卑しいと言われた女性が，その当時女性の宝である自分の黒髪でキリストの汗を拭い血を拭ってくれた。これに対してキリストは女に向かって「汝は救われる」とこう言ったのであります。

つまり私がここで申し上げたいのは，いま沢地さんのお話にもありましたように，最後に耐えそして一番極限の中において愛情を注ぎ込むのは，実は女性であるということであります。決して私はここで男性に対して軽べつの念を発しようという気持ちはありません。しかしバイブルの中からキリストの問題を考えていくとき，世の中で一般に言われているただ漠然とした女性像ではなくて，ただ一人のキリスト家の家族としての女性の強さと，それから外部の女性がごく自然に行なったキリストに対する行為，これは一万年から二万年と世の中が変わり人心が変わり科学技術が変わっても，変わらないものが存在するであろうと考えています。

中東におけるエネルギー情勢

ホメイニ師をめぐる動向

つぎに最近のエネルギー問題について申し上げたいと思います。これについては何と言ってもイランの問題を取り上げなければならないと思います。イランのホメイニ師が現在政権を取ってますが，このホメイニ政権がどれだけ続くかというと，恐らく１年ないしは１年半は非常に混迷のうちにホメイニ政権が維持されると思います。イランの政情が安定化するのは，全く霧の向こうの話であって全く予測が不可能であるというのが昨近の現状であります。ホメイニ師がイラクに亡命をし，イラクからパリに亡命をしたときに，ホメイニ師を援助したのがＰＦＬＰ（パレスチナ解放人民戦線）であります。またパリに亡命をしたときにホメイニ師を経済的に援助したのはイタリア共産党であります。そしてホメイニ師はパーレビ国王の退陣とともに凱旋将軍のような形でテヘランの空港に到着したのであります。

大体イランのイスラム教というのは，シーア派といって，全イスラム教徒の人口のわずか８％ないし９％しか占めていません。いわば少数イスラム教の民族であります。そしてこのイスラム教のあり方，

特にシーア派のあり方というのはサウジアラビア，アブダビ等中東産油国の主要な国々の強硬なイスラム教主流派とは違い，ある意味においては非常に寛大なイスラム教であります。しかしながらイスラム教というのはもともと政教一致の考え方でありますから，政治に介入しそれによってアラーの神意を体するというのが，イスラム教の根本の考え方であります。したがってホメイニ師が政権を取るに当たって，政治に積極的に介入するという姿勢をとったのであります。そしてパーレビ国王の末期に，第一野党であったバザルカン内閣が実際の政権を行なうということになったのであります。

○対立と妥協の現イラン政権

ところがバザルカン政権のものの考え方とホメイニ師のイスラム教との間には，水と油のような関係にあります。つまりバザルカンは経済の近代化を徐々にやっていく，またそれぞれの段階に応じて，ないしはイランの事情の変化に応じて，それに適応するように経済改革をやっていこうというのがバザルカン政権の政治姿勢であります。これを日本の政党に例えると，民社党のような性格を持っていますし，またヨーロッパの政党に例えると，西ドイツの社民党の政治姿勢に非常によく似ています。その意味においてホメイニ師の非常に保守的な考え方と，バザルカンの改革主義の考え方との間には，水と油のような関係が存在するといえるのであります。

ところが今年に入り，ホメイニ政権の発足に当たり，ホメイニの陣営が二つに割れてしまった。つまり政治に積極的に介入していこうというホメイニ派と，政治に積極的には介入しないという一派が，さらに同じイスラム教の中において二つに分裂をした。ところがまたバザルカンの方も二つに割れたのであります。ところがその後，一つは水と油の関係にあるホメイニ師とバザルカンが政治的に妥協したがこれに反対したのが，イラン石油公社の総裁であるナジで，かれがこの間解任されました。ナジはイランにおける知識人のピラミッドの頂点にいる人で，彼がホメイニ師とバザルカンの政治的妥協に反発して，この間の選挙をボイコットしました。このような動きから，イランの知識人が現在のホメイニ政権に協力しないという態度を打ち出したのであります。

○大きな力を持つ小数民族クルド族

つぎに大きな力を持つのは小数民族であります。この間クルド族に内乱が起こりました。あれは，少数民族というが，イランにはたくさんの少数民族がおりイランの人口の約半分を少数民族の集合体によって占められています。そしてクルド族というのは，イラン，イラク，トルコ，それからソ連の一部にまでまたがって住んでいます。そしてこの少数民族はホメイニ師に対して，自分たちも民族としての自立を要求しています。したがってイランの人口の半分を占める少数民族は，いまホメイニ師とバザルカン政権との妥協の上に成り立った政権に対して，武力で対抗していこうという姿勢を崩していません。

それともう一つは，昨年アフガニスタンとソ連が二国条約を結んだことから，アフガニスタンのソ連化が起こりました。そしてソ連はアフガニスタンの南にある西パキスタンのソ連化をねらっています。西パキスタンがソ連化されてしまうと，日本の石油を運んでくるマラッカ海峡が，直ちにソ連によって脅やかされることになり，さらにインド洋の制海権もソ連によって十分にコントロールされることになる。そうすると，ペルシャ湾の入り口にあるホルムス海峡も，ソ連によって意のままにできることから西パキスタンの共産化が非常に恐れられているのであります。

ところでパーレビ国王は大変に急速な経済成長政策をとったのであります。その結果，労働者が不足になりました。約12万人のビザなしの労働者がアフガニスタン及び西パキスタンからイランに入って来たのであります。ところが日本では全く知られていないけれども，ソ連領内には2,000万人のイスラム教徒がおり，したがってイスラム教の寺院もあります，これをモスクと言っています。このモスクでソ連は何を行なっていたかというと，イスラム教国を共産化させるための専門家を養成する場所にしていたのであります。そういう所で養成された人間及びＫＧＢ(秘密警察)，こういうものが12万人のビザなしの労働者の中にまぎれ込んでイランに入っているのであります。だからパーレビの末期には，例えば石油産業における労働者が組織的なデモを行なうというようなことができ得たのも，こういう左翼勢力がイランの中に流れ込んでいたからであります。

○政変前の採油水準の回復は不可能か

そのほかにも少数民族がいることからイランの政権，ホメイニ師が独裁色を強めると自分の政権の前途が不安定になり，ますます独裁色を強め，そしてクルド族に対しても武力で弾圧してくることが考えられます。そうするとイランに革命が起こります。これまでは一日当たり600万バーレル/日の生産をしていたのが，イランの油田は大変に老朽な油田のため，二段階の方法をとらないと油が出てこないのであります。

つまりガスを注入し，ここにたまっている油を持ち上げているのであります。したがって石油採掘の工程が長くなれば長くなるほど高度な技術を使わなければならないし，そのために２万４千人の外国人技術者がいたのですが全部国外に出て行ってしまいました。そうすると，このように非常にむずかしいイランでの採油を，前の段階にまで戻すということは不可能なことではないかと思います。よく日本では400万バーレル/日の生産が回復したなどと言われておりますが，400万バーレル/日の生産ができたのは，ことしは５月だけであります。ことしの１～６月の平均は255万バーレル/日であります。特にクルド族との内戦が始まった８月には，わずか150万バーレル1日でありました。したがって現状のイランの技術的及び政治的諸要因から考えまして，イランは日産約250万バーレル前後と考えるのが穏当であろうと思います。そうすると，イランは600万バーレル/日を掘って国内で60万バーレル/日を使っていましたので，約550万バーレル/日を輸出に向けていたのですが，これが250万バーレル/日に減ったとすると，残りの300万バーレル/日をどこの国が補うのかが問題になります。

そうするとサウジアラビアが補ってくれる可能性を期待するのであります。しかしながらサウジアラビアといえども，300万バーレル/日のイランの減産分を補完するだけの能力は持っておりません。

それからもう一つの問題でありますが，私どもはとかく日本の中にだけおりますと，石油の価格はどうなるのか，石油の供給量はどうなるのかという問題にのみとらわれがちですが産油国を回ってみました結果，特に重大な問題はパーレビ王制が倒れたということは，近代化の挫折を意味するという考え方を持っています。つまりパーレビ王制と同じような形でサウジアラビア，リビア，イラク，アブダビ，カタール，アラブ首長国連邦，クウェート等の国々が増産をやっていくとなると，近代化をしたパーレビと同じような挫折に遭う，だから彼らは余り近代化を急いでいない。近代化を急がないということは，増産をそれほどする必要がない，こういう問題に実はつながるのであります。

それともう一つありますが，それはアメリカに対する不信の念をいだいていることであります。例えばパーレビ国王がイランの末期に，何とかアメリカに助けて欲しいという要請をしたときに，アメリカの第七艦隊は北東アジアにいました。その第七艦隊が空母を中心にして，ペルシャ湾岸にパーレビ救援のためのデモンストレーションをかけたわけです。

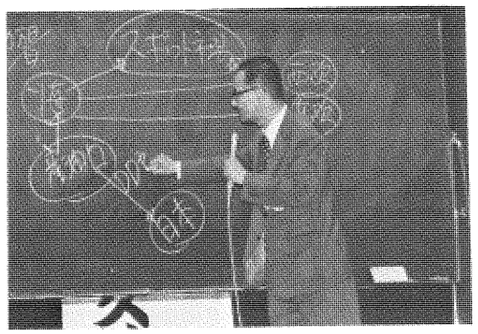
ところがその行動を見て，ソ連のブレジネフがもしイランの政変にアメリカが介入するようなことがあれば，ソ連は黙って見ているわけにはいかないという警告を発した。事もあろうにカーター大統領は，ちょうどシンガポールの沖を通っていた第七艦隊をシンガポールの沖で止めてしまったのであります。このようなことからアメリカに対する不信の念が起こったのであります。

○値上りする原油価格とアメリカ経済との関係

このほかに，次のような経済的なことも出てきました。もし私がオペックのオタイバ議長であれば，私は消費国に対してまた石油の値上げを要求します。その理由をこれから説明いたします。1972年から78年の末，昨年の終わりまでにアメリカの卸売物価は80%上がっています。今度のオペックの値上げは，アメリカの卸売物価の上昇率にほぼ等しいだけの値上げをやったということです。さらにオペック側が求めているのはドルの減価相当分の補償についてであり，ドルの価値は円やマルクのような先進国の通貨に対し約30%減価をしています。この30%分を石油はドル建てでありますからドルの減価分について補償を求めているのであります。このような事情からドルが立ち直り，それからアメリカのインフレがおさまらない限り，またドル建てで取引をやっている限りは目減り分の保障を求めるという意味合いから当然値上がりということが出てくるものと考えられます。

○スポット市場における価格のメカニズム

それから次の問題としてスポット市場のことがあります。スポット市場というのは，オランダのロッテルダム，シンガポール，ペルシャ湾，そしてニューヨークにありますが，一番代表的な所がオランダのロッテルダムであります。スポット市場で当用買い，つまり先物を買うのではなくていますぐに買いたいという物を，ここでどれだけ売りたい，どれだけ買いたいということで買うマーケットがスポット市場であります。ところが驚くべき現象が起こっています。それはソ連が今年の2月で，一日当たり1,250バーレル1日のピーク生産をしていたが，それからずっと下降線をたどっています。したがってソ連の石油事情は80年代になると大変に厳しい状況が予想されます。恐らく83～84年ころにはもう一回オイルショック，しかもソ連が新しく入ってきて起こる可能性というものが非常に大きいと考えていただいた方がよいと思います。



スポット市場での価格メカニズムを説明する矢島講師

ところがソ連が西ヨーロッパに石油を輸出していましたがこれを削減しました。この削減した分をスポット市場に流すわけです。そうすると，1バーレル23ドルないしは24ドルという値段で本来ならば売れる物がスポット市場に行きますと36ドルないしは40ドルの値段で売れることになりますと，どうしても政治価格よりも経済価格の高い方に流れていく，これは経済の論理でありやむを得ないことであります。

それからまたソ連は東ヨーロッパにも石油を輸出しています。けれども，東ヨーロッパはルーマニア以外は石油が採れません。1968年にチェコのドブチェク政権がソ連の戦車によって踏みにじられた，あのことをプラハの春と言われておりますが，それは事実とは違って，実はチェコはソ連からの石油をストップされる事によってドプチェクはソ連の戦車の前に屈服したわけであります。東ヨーロッパにソ連が石油を供給しないと，東ヨーロッパは西ヨーロッパ側に寝返りをされるので，どうしても東ヨーロッパにソ連は石油を供給せざるを得ない。そこでソ連が東ヨーロッパに供給すると同時に産油国から油を買いあさっているわけです。これにより東ヨーロッパに輸出をし，余った分をスポット市場に流す，こういう形をとっているのであります。

それからもう一つは石油資源の少ない日本の問題であります。これは産油国が例えば直接原油，これをDD原油といいます，ないしは政府間の取り決めによるGG原油，こういうような形で産油国が日本に供給をする。ところがその分も国によっては削減の方向に向かってきている，この削減された分は全部スポット市場に流れます。それから国際石油資本と言われるメージャーでありますが，このメージャーは日本との間の取引において長期契約を結んでいます。結んではいますがこれを削減していく，例えばイギリス石油，（BP，ブリテッシュ・ペトロリアム）は来年は日本への供給はゼロであります。こういう形でメージャーがどんどんと日本に対して削減をしてきています。この削減分を自分の国の備蓄に充て，またスポット市場に流す，こういうような動きをしています。

したがって私どもは国内でまだ石油は余り気味だ，ダブつき気味だと楽観するようなことを言ってますが，先程来の事情からしますと，イランの300万バーレル/日の減産分をどこの国が補完するのか，だれがカバーしてくれるのか。恐らく300万バーレル/日という膨大な数字になりますと，これをカバーする産油国はあり得ない，したがって供給量の削減ないしはスポット市場への流れ，こういうものが必然的に出てきます。

ですから例えば世界の経済が2%～3%，日本のような国でも4%くらいの低成長を続けていこうとするならば，2～3年に一度くらい北海油田やアラスカ油田くらいの規模のものが二つくらい発掘されない限りは，世界の経済成長を続けていくこともできないような非常に苦しい事情の中に置かれているということを，まず率直に申し上げなければならないと思います。

20ドル原油時代の意味するもの

価格の固定観念は要注意

過日，日経連で20ドル原油という表現を使いました。私は20ドル原油であるならば，私自身は金を持っていなけいけれども1億トンほど買いたいということを申しました。そうしたら桜田前会長が，矢島先生，それはどういうことを意味しているのかといいました。私どもは20ドル原油ということを言うときは，どこか自分の裏庭あたりに原油が運ばれてきて，それに20ドルを支払って原油を手にするというように考えるのが常識であります。ところが一般に新聞・ラジオ・テレビ等で言われている20ドルという値段は，実は産油国で本船渡し（FOB）のときの値段であります。したがって20ドルで私の庭先まで運んできて1バーレルの原油を買えるなら，こんな安いことはありません。いま船賃が高くなっていますので，1バーレルを日本に運んでくるのにも1.7ドルから2ドルくらいのコストがかかるわけです。

したがってイランやイラクの強硬派各国が，上限の1バーレル23.5ドルという値段をこの間のオペック総会で決めましたが，実際はそれすらも破られて，しかもそれは現地渡しであります。運賃を含めると25ドルから，場合によっては26～27ドルという値段となるのであります。ですから20ドル原油という表現を使っているのは日本だけで，西ドイツは35ドル

原油，フランスは32ドル原油という言葉が常識的に使われています。それはなぜかと申しますと，石油でつくられた製品の値段，例えばナフサ，それから灯油・軽油，こういうものは既に1バーレル50ドルを超えています。そうすると1バーレルの原油が35ドルでも十分採算が合うというところから，西ドイツは35ドル原油と言い，フランスは32ドル原油と言っているのです。

このように考えてきますと，私どもはいまの石油価格が現状において固定されていくというように考えるのは大変に危険なことであります。少なくとも原油の値段はオペックで決めた，例えばサウジアラビア，アラブ首長国連邦，カタール等の石油の値段は1バーレル18ドル，それからイラン，イラク，リビア，こういう強硬派が決めた23.5ドルの上限，平均して大体21ドル前後の原油が買える。これはあくまでも政治によってつくられた価格でありまして，政治情勢いかんによっては下がることはなく逆に上がっていくものと考えるべきだと思います。

それではどのような方向に向かって上がっていくかと申しますと，スポット市場の経済価格にサヤ寄せされるような形において石油価格が上がっていく。したがって30ドル原油，35ドル原油という時代は，私どもが想像しているよりも早い時期に到来すると考えておかなければならないと思います。

○世界における財政赤字の現象

さらに石油は国際商品であります。国際商品である石油の値段が上がると，同じように国際商品である非鉄金属・繊維・木材・砂糖の原料の原糖，こういうものまでがどんどん値上がりをします。そうすると諸原料の78%を日本は輸入に依存しておりますから高くなった原料をすべて海外から買わなければなりません。このため卸売物価が上がりますし，これが上がると，約1か月半から3か月の時間のズレでそれが消費者物価にハネ返ってくる，したがってこういう面からインフレの様相というものが極めて大きいと言うことができると思います。

さらに，現在の財政は大変な赤字であります。最近は一般消費税に反対ということで国民の意見がほぼ一致したように見えます。しかしながらこのツケは2～3年後には2倍，3倍になってくることを考えておいてほしいと思います。これは私が大平さんの代弁をしているわけではありません，論理的にそうなります。

実はいま驚くべき国家財政の赤字現象があります。アメリカの赤字は79年度390億ドル，西ドイツが190億ドル，フランスが30億ドル，イギリスだけは78年度ですが170億ドル。イギリス，フランス，西ドイツ，アメリカと全部合わせて780億ドルであります。ところが日本は1国で800億ドルであります。この現実を政府だけが悪いなどと言うこと自体，ナンセンスではなかろうか。仮に日本人一人が1年間に100万円の生活をしているとします。60万円を自分が出す，40万円は国家の予算であります。これほどまで日本人は甘ったれで，そして自分の金は出さないで，ツケは国家に回すという堕落ぶりであります。少なくとも私どもは100万円の生活をしたいならば，頭金を60万円から65万円，70万円から80万円というように高めていって，これにより政府負担を少なくしていくという努力をしない限り，財政の破綻は時間の問題であります。

また増税をしないことは今度の選挙で決まったわけですね。野党の方は理屈を抜きにして，とにかく増税は反対と言われたのであります。その結果，増税をしないで国家財政を改善していく道は，バラまき福祉や福祉関係予算を極度に切り詰めなければできないということでもあります。皆様方はいつわりなく福祉は切り詰めてもよろしい，増税は御免という選択をされたことになりますからそれだけの自覚をしていることと思います。（笑）



〝日本人はあらゆる困難を克服する民族〟と強調する矢島講師

日本の持つ唯一の資源

----ヒューマン・エナジー（働く意欲）----

つぎに景気についてでありますが，つまり日本の経済はデフレとインフレの同居生活が始まる可能性が来年度から起こってきます。もう既に個人消費もボツボツ，カゲリが見え始めてきました。企業でも一部にはこの石油のコストアップによって電力を始めとして収益が悪くなるという情勢になってきました。したがって，日本の経済は来年及び来年以降は曇天から豪雪の季節に入る可能性が非常に強くなってくるものと思います。

しかしながら救いがあります。この間の東京サミットのとき，7か国の首脳の顔をジッと見ていました。シュミットは禁煙という言葉が読めるにもかかわらず，タバコをプカプカとふかしている。サッチャーはタバコが大きらいということを知っておりながら，顔に煙をパッと吹っかけているのです。その西ドイツが今日どうかというと，経済的には物価の面において比較的安定をしていますが，経済的には非常に苦境に立たされています。つまり日本を除いて残りの6か国は，確かに何らかの形において石炭・石油等々のエネルギーを持っています。

ところが日本は石油・石炭という資源は持っていないが，あの6か国が持っていない資源を持っている。それはヒューマン・エナジー（働く意欲）というものです。これを持っているのは幸いにも日本だけです。私の知り合いのアメリカ人が日本で結婚式を挙げたいので私に仲人をさせました。そのアメリカ人が今年の5月の連休に久し振りにピッツバーグの自分の家に帰りました。そうしたら教会の牧師をやっているお父さんが，「早く日本に帰れ，こんなアメリカにいたら堕落するから」と言われた。確かにニューヨークからいろいろな所を歩いてみると，上から下まで働く意欲を全く失っている。疲れ切って日本にそのアメリカ人夫婦が帰ってきて，私の所に電話をかけてよこして曰く「やっとホッとした」ということであります。「あなたはどこの国の人ですか」と言ったら，「一応国籍をアメリカに置いている日本人です」という返事であります。このように日本人は，あの7か国の中でただ1国だけ働く意欲を持っている国民なのであります。

したがって私どもはこれからの時代は，日常の生活の面においても，仕事の面においても非常に厳しい時期を迎えざるを得ないと思います。しかし日本人は，働く意欲と職業倫理というものを持っていると思います。したがって非常に苦しい時期を迎えるとはいっても，この間の第一次オイルショックのときにも見事に難関を克服してきた日本人としては，今度も手で石を刻み込むことも可能であろうと，大きな期待を寄せると同時に，必ず日本はそういう困難な時期に向かっても実に世界に類を見ない対応の仕方をするとことができる民族であるというように信じているのであります。

時間も過ぎましたが，最後に一言申し上げたいと思います。「暗闇をのろうよりも小さな一本のローソクをともせ，そしてこのローソクの火を絶やさないでともし続けるという気持ちを一億の人々が持ち続けるならば，明後日の日本は依然として健在である」ということを結論として申し上げたいと思います。

御静聴ありがとうございました。（拍手）

（文責・広報室）

先輩と語る 東北電力史

第3回 只見川の大規模電源開発

＜全社一丸，火の玉になって＞

当社は創立当時，多くの困難な経営環境のなかで当社発展の一大基礎となる水力電源の開発を阿賀野川水系只見川において積極的に行なった。当時，この只見川の大規模電源開発を推進するにあたり，現地ならびに本店において豊富な経験をフルに発揮して数多くの仕事に従事された矢崎道美氏に登場していただきその模様を語っていただいた。以下その内容を紹介する。



矢崎　道美さん

語る人
東北ポール株式会社
相　談　役　矢崎道美氏
きき手
広　報　室　次長　鈴木　力



鈴木広報室次長

矢崎道美氏の主な経歴

明治40年12月9日生まれ。昭和8年3月京都帝国大学工学部土木工学科を卒業，同年4月広島電気に入社。

その後，昭和14年7月，日本発送電建設部土木設計課に勤務，さらに20年11月には東北支店宮下発電所建設所長として東北に入る。その後，26年5月の電力再編成により東北電力建設局土木建設部次長兼土木計画課長，35年5月取締役に就任，41年5月役員を退任した。これまでの功績に対し41年11月黄綬褒章を授与されている。

全社挙げて只見川開発へ

鈴木　きょうは「東北電力史」の第3回として，当社創立時の大きい問題であった只見川電源開発について，当時その建設工事に従事された矢崎さんにいろいろ当時のもようをおききしたいと思います。

矢崎　私も先日ご依頼を受けて，いろいろと調べたり，当時の記憶をよび起こしたりしてメモをとって来ました。

鈴木　それはどうも恐れ入ります。

矢崎　そこで，このシリーズでの第1回で内ヶ崎相談役もおっしゃってましたが，発足当時の電力不足は非常に深刻なものでしたが，なぜそうなったかというと，終戦ごろから数年間というものは，電源開発をやらなかったからで，それに再編成問題もからんで電源開発ができなかった。そこへ25年，朝鮮動乱が勃発して，特需といわれる異常景気のため電力の需要が急増したのであります。

内ヶ崎さんも言われたように，「日本の再建は東北の振興から」をモットーにかかげて，白洲会長，内ヶ崎社長，平井弥之助常務らが先頭に立ち，全社一丸となって水力電源の開発にまい進したのが，創立後数年間の姿でした。本当に全社一丸，火の出るような意気込みでしたねえ。

鈴木　会社創立の意気込みと電源開発への意気込みが一つになったのですね。

矢崎　そういうことです。発足と同時に，会社機構の中に，特に部の上に建設局を置き平井常務が局長に任じられ，発電所建設に力を注ぐことになったが，これは他社に例を見ない当社独自の機構でした。会社のなみなみならぬ意気込みが分かるというものです。また現地には只見川開発事務所（北松友義所長）を置き，開発のための調査，設計を進めることにしましたが，これは翌27年に会津若松に本店直轄の会津現業部ができて，発展的に解消しました。



元取締役
副 社 長　平井弥之助氏



元常務取締役
村田　秀雄氏

この会津現業部は，本店が直接只見川開発にたずさわるという意味の機関です。土木技術者は本店でも現場でも，ひたすら建設に専念すればいいということで，余計なことに煩わされずに仕事ができ，まあ気楽だったといえますね。

山ごもりして調査測量

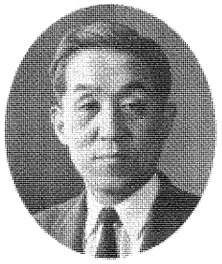
鈴木　東北電力にとっては只見川開発は至上命令だったわけですね。

矢崎　そうも言えますね。そもそもの関わり合いは，終戦直後の昭和21年からで，当時日発東北支店で，将来の電力需要に備えて，只見川を調査する必要があるという声が起こり，当時土木係長だった後藤壮介氏が隊長となり8人の調査隊が現地へ入ったんですが，これが最初の調査です。当時は想像もつかないほどの物資の不自由な時代でしたが，調査隊は陸地測量部の地図をたよりに，非常な困難をおかして只見の奥地に約1か月間滞在，地形や地質，流量や流速などを調べ，これがその後の調査，計画の基礎になったのです。

翌22年に本格的に田子倉に只見川調査所を設け，その上流の奥只見の須原口に詰所を置いて詳しい調査をつづけましたが，いま電発にいる柳内泰介氏以下20名の所員が不便な山中で，雪で交通が途絶するまでがんばりました。なにしろ物資の調達が困難で，衣料や食糧の確保に苦労し，福島県知事の石原幹市郎さんのご好意で，米や地下足袋などを特に配給してもらい，なんとか最低の必要量を満たすことができました。



元監査役　北松　友義氏



元常務取締役　後藤　壮介氏

鈴木　矢崎さんは当時どこにおられましたか。

矢崎　私は当時宮下発電所の建設所長をしておりました。ここが只見川調査所の足がかりになっていて，ここを基地にして現地へ往来したわけです。

鈴木　するとずっと宮下におられたわけですか。

矢崎　いや23年ごろ第一期の建設が終りまして，東京の日発本社へ帰りました。その後再編成問題が起り，本社の職員が各地区の電力会社へ配属になったのですが，私はどこへ行こうかと考えていると，家族はどこへ行ってもいいが，もう寒いところだけはごめんだといってましたね。(笑)

鈴木　それがどうして東北へ……。

矢崎　土木部長の平井弥之助さんが，どうだ東北へ行って只見川開発をやろうじゃないかと言うわけで，土木屋としてはやり甲斐のある仕事ですからね，それで東北へ志願したわけです。その時いっしょに来たのが，今の土木部長の藤原忠夫さん，女川原子力発電所の建設部長である鳥居良明さん，その他だいぶおりますね。

本流案と分流案をめぐる争い

鈴木　只見川本流案と分流案の争いというものはいつごろから始まったのですか。

矢崎　あれはね，23年からですよ。日発の只見川調査所は22年に開発計画をまとめて，23年にそれを一般に発表したんですが，それとほとんど同時に新潟県から分流案というものが出て来たんです。それから約5年間，やっさもっさと両案の優劣が福島県と新潟県を中心に争われて，世間を賑わしたという次第です。

分流案というのは，田子倉と奥只見から長大なトンネルで水をひき，新潟県の黒又川に落し，そこから長岡の付近の妙見というところまで四つの発電所を作るというものです。当時の技術から見てとてもムリな計画でしたが，新潟県では岡田正平知事が先頭に立って政治家や官界に働きかけ，この案の推進を図ったんですが，一方本流案を支持する福島県もゆずらずに長い争いがつづいたわけです。

政府も心配して，ひそかに米人の技師に依頼し，両案の優劣を調査させていたんですが，26年公益事業委員会が正式に海外技術顧問団（ＯＣＩ）を発足させ，公式に両案を比較検討して判断してもらうことになったのです。

いろいろと経緯があったのですが，結局本流案に落ちついて，開発方式は本流案がいいということになったわけです。ところが新潟県は引き下らない。政治問題にして政府を動かし，とうとう当時の岡野通産大臣が妥協案として「一部分水案」を決定したんですね。奥只見から細いトンネルで水を落すというもので，一応新潟県のメンツを立てたから，新潟県は納得したが，福島県はなかなかおさまらない。それを会津現業部長の北松友義さんは，水量にしてわずか１％の小便水みたいなものだから，これで手を打ちなさいと勧告して大竹知事もしぶしぶ承諾したというわけです。まあとにかくあのころの両県の争いというのは大へんなものでしたよ。



当時大竹知事に寄せた吉田首相の手紙

鈴木　当時は社会的にも相当な反響があったのでしょうね。

4発電所の工事が同時進行

鈴木　只見川開発本流案の利点というのはどんなことなのですか。

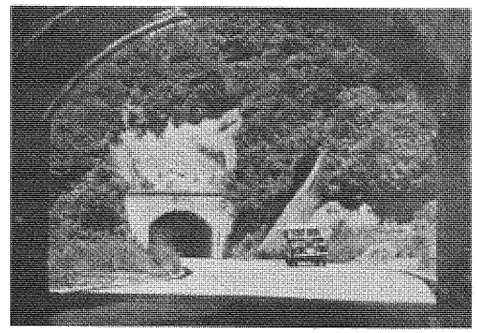
矢崎　只見川最上流の尾瀬原から，最下流の揚川まで階段状のダムが連続し，一滴の水もムダなく利用されて発電できるということですね。只見川の流量と落差に殆んどロスがない。宮下と揚川に短かい500mか800mの水路があるだけで，あとは全部ダム式だから調整能力はあるし，発電用としては世界にもあまり類がない。アメリカのテネシー河にＴＶＡというのがありますが，日本では木曽川や黒部川もたくさんの発電所を持っていますが，水路式が多くて，今日の眼で見るとかなりロスがあるんですね。だから只見川の発電所群というものは最も近代的で合理的な水力電源ということになります。

東北電力の発足当時，只見川にはすでに宮下，新郷，山郷，豊美，鹿瀬などの五つの発電所があったのですが，宮下を除きすべてダム式で，これはその後の開発に大いに寄与したのですが，私はこれらを作った先輩技術者たちには大いに感謝しなければならないと思います。

鈴木　建設工事の最盛期の只見川は大へんな賑わいだったでしょうね。



昼夜兼行で建設中の本名発電所



只見の現場で活躍するランドロバー

矢崎　工事は東北電力発足とほとんど同時に，26年12月に第一期工事としての柳津，片門の２発電所建設工事に着手したのですが，この大工事をなんと１年７か月で，昭和28年７月に完成したのだから，いま考えてもよくやったものだと思います。その上流に27年から上田，本名の両地点に着工したのですから，４発電所が同時に進行するという有様で，さらに宮下発電所増設工事と東洋一といわれた沼沢沼揚水発電所の工事も進めているというわけで，只見川はまるで戦場のような，空前の工事ブームでした。これらの工事をすべて会津現業部が統制していたのです。

鈴木　皆さんよく身体が持ったものだと思いますね。

矢崎　その通りです。もっとも倒れて寝込んだ人もありました。北松さんなんかも肝臓を病んで３か月も休まれたことがありました。

いまは珍らしくもないが，ブルドーザーと大型ダンプカー，少しおくれてパワーショベルなどが，我が国でははじめて導入されたころでこれら文明の利器が只見川の谷間でたくましく動きまわり，夜はこうこうと照明灯で照し出して，昼夜兼行，本当の突貫工事でしたね。それからランドロバー，白洲会長の紹介でイギリスから買入れた自動車が現場から現場へツバメのように飛び回り，なにせ少ない人員で多くの現場を同時進行させているものだから技術者もかけもちで，その移動や連絡にランドロバーは重宝でしたよ。

こんな具合で昭和29年には柳津，片門，上田，本名，沼沢沼，宮下増設の工事も終わり，第一期工事を終えた次第です。

そのあと引きつづいて第二期工事が続けられ，上野尻，揚川，山郷増設，本名，上田の増設などを進めたのですが，このころは会津現業部も廃止されていましたが順調に進行して行きました。

開発の資料を電発に提供

鈴木　電源開発会社の工事はいつごろからはじめたのですか。

矢崎　31年の末ごろから田子倉発電所の工事がはじまりました。

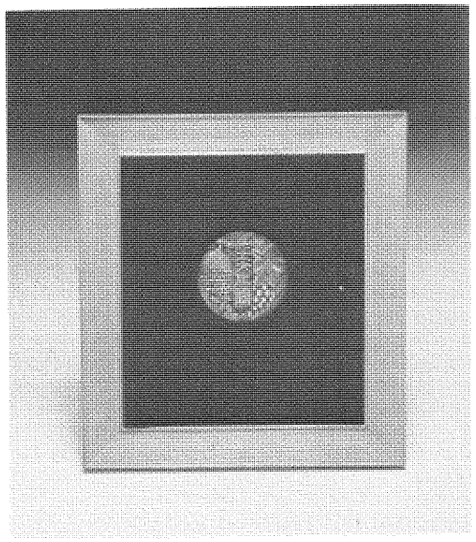
この田子倉とその上流の奥只見が実は只見川電源の本命なので，もちろん東北電力の手で開発するつもりで只見川上流調査所の所員も非常な困難を凌いで調査に従事していたものです。しかしその工事資金がぼう大なものである関係もあり，政府が27年に発足させた電源開発会社がやることになり，東北電力，東京電力，電源開発の３社が会談を開き，東北は建設のための資料，東京は水利権を提供して，電発が工事をすることに決まったわけです。只見川開発を会社の第一の使命とされていた内ヶ崎社長の胸中はどんなであったでしょうか。

鈴木　お察しするに余りありますね。

矢崎　田子倉，奥只見発電所の建設には東北電力から多くの社員が出向して協力したんですが，ダム建設による水没家屋や田畑の補償にはこれらの出向社員が当って解決しました。補償問題は発電所建設に大きなウエートを占めるもので，技術とは違った困難性があるのですが，これは長年現地にいて知悉している東北電力の社員でなければ解決が長びいて，建設も遅れたことでしょう。

水利権訴訟と河北文化賞

鈴木　このシリーズの第１回で内ヶ崎相談役が



昭和27年に贈られた第２回河北文化賞

触れておられた水利権訴訟も，大きい問題でしたね。

矢崎　そうでしたね。本名，上田地点の水利権は関東配電から承継して東京電力が持っていたんです。東北電力が本名，上田の水利権を申請すると，福島県は東北電力に許可した。これは建設省河川局長の，遊休水利権は債権と見なす，という通告をタテにとったものですが，東京電力では自己の財産権の侵害であるとして，福島県を相手どって東京地裁に提訴したわけです。

東北電力でも福島県の公判資料づくりのため，当時の村田秀雄常務取締役が中心となり，三島保弁護士，高橋勇治文書係長や菱沼卓郎現常任監査役などが，いまはホテルになりましたが境屋旅館にこもって協議したものでした。徹夜も珍らしくなく，私も何度か呼ばれて，技術の立場からの意見を述べました。公判では平井弥之助常務や北松会津現業部長らも呼び出されて，証人台に立ちました。

鈴木　結局，吉田首相の異議申し立てで解決したわけですね。

矢崎　そうです。内ヶ崎さんの回想にもあるように，電源開発は早急に行わなければならないから公益上止むを得ない措置であるとして，工事差

し止め仮処分への総理大臣の異議申し立てによりケリがついたのです。

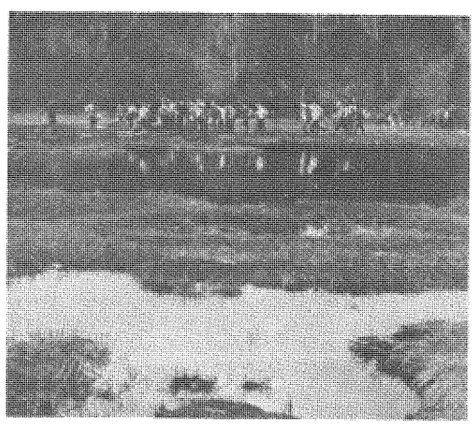
鈴木　それも只見川開発にまつわる思い出の一つですね。その他にもいろいろと思い出やエピソードのようなものがあると思いますが……。

矢崎　河北文化賞をもらったのも思い出の一つですね。それは多くの困難を冒して，只見川電源の調査に当った功績に対して，柳内泰介以下20名の只見川調査所関係者に，昭和27年に第２回河北文化賞が与えられたものですが，その中の渋谷正雄君は現地から帰ると間もなく亡くなりました。尊い犠牲者でしたね。

只見川開発の歌

鈴木　最近東京都の水不足にからんで，尾瀬原の水を関東へ落すという案が出ているようですね。

矢崎　これは大分前から問題になっていましてね。尾瀬原をダムで水没させて，その水をトンネルで群馬県の楢又川に落し，25万kW の発電所を二つ作り，放水した水を東京都の水道に使うというもので，関東７都県の知事会がこの案を支援しているわけです。今度は福島県と新潟県が一致して反対しているんですが，この水争いは将来も問題になるだろうと思われます。



多くの人出でにぎわう自然の宝庫，尾瀬湿原

しかし考えてみると尾瀬原は景色はいいし，また，貴重な動植物の宝庫でもある特別天然記念物で，水没させるにはかなり問題がありますね。

鈴木　もしその案が実現すると，只見川はどうなりますか。

矢崎　もちろん水量が減って，只見川の発電所群の出力が落ち，せっかく何百億という巨費を投じて作った電源設備も，かなり効率が悪くなります。東京都民の水ということも大切なことですが，そういうデメリットもあるので，これは大問題ですね。

鈴木　かつての本流案分流案をめぐる騒ぎの二の舞になりますね。

矢崎　あれ以上になるかも知れませんよ。その本流案分流案で思い出しましたが，その争いたけなわのころ，福島のある新聞記者の人が作ったといわれる「只見川開発の歌」というのがありました。

雪に埋(うも)れし奥只見
春三月の雪どけにゃ
おどるイワナもあざやかに
奔流岩かむ只見川

というのが１番で，以下続きますが，

越後平野に水おとす
流域変更なんのその
自然の流れにたくまざる
われに不抜の本流案

これを例の「白虎隊」――戦雲暗く日は落ちて，孤城に月の影かなし――のふしで歌うんですよ。宴会などがあると当時は必ずこれが出ましてね。会津では流行しました。

それからそのころの私どもを驚かせたものに，只見川開発の松永案というものがありました。

これは松永安左エ門翁の案ということですから無視するわけにはいかない。その案というのは，本名発電所の上の滝地点に高さ160メートルのダムを作って，大貯水池を作ろうというもので，これだといまの只見町がすっぽりと水底に入り，3,600戸の家屋と3,000町歩の田畑が水没するとい

うドエライ計画でしてね，技術的にも問題があったし，到底ムリなものでしたが，一応調査してみると，その地点の地質がそんな大きいダムに耐えられないと分って沙汰やみになりましたがね。

まあ当時はかなりびっくりさせられました。

北部電源開発も同時進行

鈴木　今まで主に只見川開発のお話をうかがいましたが，当時は青森県など北部でも電源開発を行なっていたのですね。

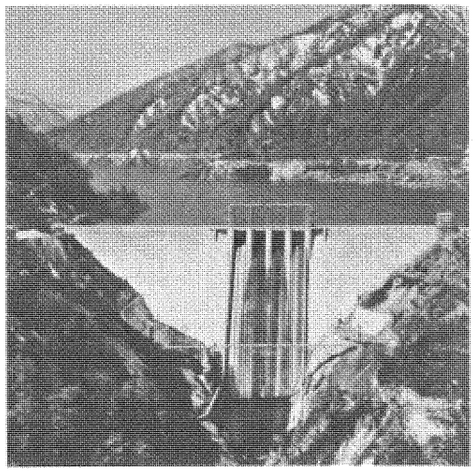
矢崎　これは東北電力としても特筆すべきことですね。只見川の開発に力を注いでいる時期に，一方では北部電源の開発を同時進行させていたんですから，技術者は一人二役はザラでした。

完成順に名をあげると，日発東北支店からひき継いだ立石発電所増設（青森県，３千500kW，26年12月）と夏瀬（秋田県，２万kW，28年１月）および東北配電から継承した滝渕（青森県，５千kW，27年２月）を完成させ，葛根田第二（岩手県，５千100kW，28年７月）同第一（１万５千kW，29年３月），法量（青森県，６千８百kW，30年１月），大池第一，第二，松神（青森県，合計２万kW，31年３月）などを次々と完成させました。

それ以後は十和田増設（青森県，７千kW，32年７月），八久和（山形県，６万kW，33年３月），新落合（同，２万kW，33年１月），大所川第二（新潟県，２万６千kW，34年11月），同第一，第三（新潟県，合計２万２千500kW，37年）大針（山形県，７千100kW，35年３月）などが主なところでしょうか。それから最上川は電源としては開発できないといわれていたのですが，上郷（山形県，１万５千400kW，37年２月）をあえてやりましたね。

小さいものですが十和田湖の傍の蔦発電所（２千３00kW，36年１月）もやりました。

また多目的ダムの関連発電所として宮城県鳴子ダムの鳴子発電所（１万８千kW，32年４月），同じく大倉ダムの大倉発電所（５千200kW，36年７月），釜房ダムの釜房発電所（１千200kW，45年３月）などがあります。



偉容を誇る八久和ダム
（重力式コンクリートダム，高さ97.5mは当社第一）

さらに釜房発電所の下流にある人来田発電所にわが国で初めてのチューブラタービン（低落差用水車）を使用して注目をひいています。

まあ少し自慢ばなしになりますが，創立してから10年ほどの間にこれだけの仕事をしたというのは，東北電力だけです。

鈴木　当社は他電力に比べると水力発電設備が大きい率を占めており，火力時代の今日でも28%になっています。この石油の高い時に28%の水力を持っているということは，会社経営上大きなメリットになっております。これを見ても矢崎さんをはじめ先輩たちのご労苦に対しては，心から感謝する次第です。

矢崎　いや私としても，あの10年間にあれだけ仕事ができたのは，私の人生にとっても最も華やかな黄金時代というべきでした。あんな充実した働き甲斐のあった時はありませんよ。私の方こそ感謝しています。（笑）

鈴木　それではこの辺で，本日はお忙しいところ本当にありがとうございました。

（文責広報室
10月５日㈮）



柴田町は仙台駅から南に向かって約25キロメートル，宮城県南部の中央にある人口３万人を越える町で農村公園や農道作り、団地の建設など生産環境の整備を意欲的に進めている。また，ＮＨＫのテレビ番組でおなじみの「樅の木は残った」の舞台としても知られた歴史の町でもある。

近年同町の発展はめざましく誘致企業もすでに35社を数え，農・工・商の調和をはかりながら進める新しい町づくりは，いま各方面から注目されている。

順調に進むバランスある町づくり

所長　本日は，お忙しいところ貴重な時間をさいていただきありがとうございます。

また，春の文化講演会は共催していただき，成功裡に終わることができました。本当にありがとうございました。

町長　電力の文化講演会には，町民総学習を呼びかけ本当に有意義な催しでした。

また，公民館活動のなかで電気教室も開いてもらっておりますが，大変評判もよく喜んでいます。このような催しを積み重ねて町民の関心度をたかめ，町民から要望のある総合文化会館の建設へ結びつけてゆきたいと考えています。

町民総学習は学校や公民館を拠点としながら，町民だれでもがいつでも使われるように施設を拡充し，責任指導者を配置して行きたいと思っています。

さらに東北一のモデル小学校も建設中ですが，電気の供給面でもよろしくお願いいたします。

所長　営業所の供給区域は仙南二市七町ですが，私どもは三市六町などといっています。近い将来，単独市制構想もあるようですが。

町長　現在，県内随一の人口３万２千人を擁する町です。近い将来単独市制を考えて，５万人の町へと，農・工のバランスある町づくりに町民総参加でとりくんでいます。

ユニークな農村公園「太陽の村」

所長　5万人構想のなかには工場誘致の計画もあろうかと思いますが，今後の企業誘致計画などをお聞かせいただければと思います。

町長　ご存知のように，東北リコーを始めすでに35の企業の進出をみていますが，工場誘致については柴田町ほどうまくいっているところはないと自信をもっています。

現在，10万坪の工場用地があり内陸型工場の誘致にさらに努力しています。

柴田町は若い町であり，学べる町，楽しみのある町，憩いのある町にしなければと思い働く人のために総合体育センターなどの建設も考えています。

所長　「太陽の村」は全国的にもすばらしい運営と聞いております。ユニークな農村公園もありますし，花づくり団地もつくられ農・工一体の町づくりが進められているようですが。

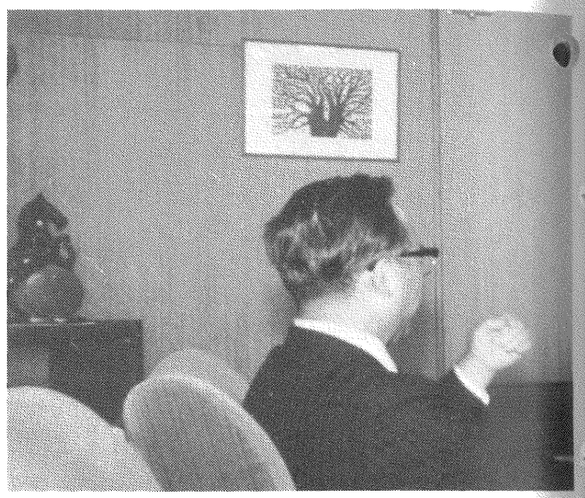
町長　「太陽の村」は農村と都市の人びとの交流の場所です。レクリエーション施設，りんごの木の貸付け，フラワーセンターや健康保安林もあり，すばらしい展望でみなさんのご利用を期待しています。

花づくり団地では柴田の露地菊として，年間300万本の生産をあげており，品質面でも高い評価を受けています。また，施設園芸も強化するなどして高級野菜の生産も考えています。

所長　「ふるさと少年団」を結成されたそうですが，これはどんな目的ですか。

町長　都市化が進むと食べたり使ったり，消費することが生活のすべてと考えがちです。たとえばモノをつくるとか，一本の茄子を育てるなど，実際に手にして子供に理解させ，ふるさとのもっている良さを認識させる必要があると思っています。

古い良き伝統を大切にし，美しい自然と高い精神生活を子供たちに教えたいということが今回「ふるさと少年団」の結成になったわけです。



対談する平野柴田町長（右）と

5万人都市建設の構想は

所長　5万人都市建設のなかに住宅団地の構想もあろうかと思いますが，船迫団地などは環境もすばらしいところですね。

町長　船迫団地は，住まいと働くところを一緒にした団地です。他の3地区と合わせ，現在3,000戸程度となっています。

仙台から25キロの地であり，ベットタウンの役割りを果たす新しい住宅地の開発を進めています。

こうして工場誘致と，ベットタウンとしての宅地開発を進めてゆけば，5万人市制は必ず達成できると思っています。

所長　憩いの場としての船岡城址公園も見逃がせませんね。

町長　古いものは壊したら終わりなので史跡や文化財保護にも力を入れています。

たしかに城址の桜，白石川畔のひと目千本桜もすばらしく，春の桜まつり，秋の県内随一の菊まつりと年間25万近い人が四季をとわず訪れています。

それから，岩手県北上市と姉妹都市の縁組みの話が進んでいます。これは旧海軍火薬工廠時代に，黒沢尻高等女学校の挺身隊がここで青春をすごされたのが縁です。



宇佐美白石営業所長（左）

エネルギー問題に大きな情熱

所長　ご承知の通り，当社の女川原発もようやく着工のメドがつきました。町長さんには長いあいだ県会議員当時からご協力をいただいておりますが，ご感想をいただきたいと思います。

町長　県会議員を八期やってきましたが，エネルギー問題については特に情熱を燃やしました。仙台港の開発に合わせた新仙台火力発電所や東北石油の設置，女川原発促進の県議会の決議書のとりまとめなど数々の思い出があります。原子力発電については先に米国のＴＭＩ事故もありましたので慎重さは必要です。これからのエネルギー開発には原子力発電を除いてほかに考えられません。こうしたことから女川原発もメドがついたことは，当時の関係者のひとりとして非常にうれしいことです。

所長　さて，最後になりますが当社に対して日頃，お感じになっておられることをお聞かせいただければと思います。

町長　地域の東北電力として真剣に努力している姿をみて感謝しています。最近のエネルギー情勢はきびしく，見通しのたてにくい状況のなかで，電力も省エネ，脱石油と色々ご苦労の多いことと思います。

所長　安定供給の責務を果たすべく，発電から配電まで十分な対応策を講じていきたいと思っています。

私どもは地域の東北電力として，努力していますので，今後ともよろしくお願いいたします。本日はお忙しいところありがとうございました。



宇佐美　所　長

10月17日(水)
文責　白石営業所

ねっちり男女平等論



評論家　上坂　冬子

①　女の出世をめぐって

もう10年ほど前のことだろうか。未婚の男女の海外ツアーに同行したことがある。いわば集団海外旅行のようなものであった。

そのツアーの中に東北電力の社員ですという，感じのいい男性がいたのを思い出す。

「我々の仕事場は大ていダムの近くの淋しい土地柄で，あんまり女の子と接する機会もないものですから」

と彼はさわやかに笑っていたが，以来東北電力，ときくと女っ気の少ない企業というイメージがまつわりついている。社内報をみても，なるほど女性の顔が少ない。

そこで，である。

いま，この現代社会の中で「女の問題」を見落すことのないように，私は女の目からみた女の問題を記してゆきたいと思う。

この間，ある放送局から女性の昇進について座談会に出席してくれないか，と電話がかかってきた。いま，日本の企業では，大ざっぱにいって女性の管理職が1パーセントなのだそうだ。三百人に一人というこの貧しい実態について女同志で話し合おうというわけである。

「申し訳ありませんが，女同志で話し合う集りならご遠慮させていただきます」

私は即座に断った。意見が大体一つにかたまってしまいそうだからである。一パーセントという数字を即座に女性差別と理解し女にももっと出世させろ，というような話し合いの中で，恐らく私はボヤンとしていなければなるまいと思ったからである。

私の知人で銀行に二十年勤めている人がいる。仕事もできる，人柄もいい，後輩からも慕われている。そこで，係長に昇進という話があった。何と，彼女は自ら，それぱかりはご辞退といって受けつけなかったのである。

「係長になったら，名刺に肩書きがつくでしょう？　それが嫌なの」

というのである。もちろんそんなことを公言する人ではなく私に「本心はこうなの」と語ったのが，38歳，独身，やり手の彼女が，肩書きつきの名刺を持ちたくないといったところに，私は女心をチラと見たように思った。

同じような話がもう一つある。

デパートの十年選手の女子社員ばかりの集りにいった。この時は社内報の座談会の司会役でいったのだが，デパートの女子社員というのはさすがに話し上手なのにまず驚いた。私が担当に「ホウ」とか「ハア」とかいっている間に次から次と話がひろがり，座談会はいつしか終りに近づいた。そこで，私がさいごに

「ところで皆さん，十年選手として押しも押されもせぬＯＬですが，いま目の前に，更に一そうやり甲斐のある仕事上のポストと，ステキな彼氏と両方あらわれたら皆さんはどちらをとりますか」

と聞いてみた。

居合わせた人々は口を揃えて

「そりゃア彼氏」

と思わず本音を吐いたのが忘れられない。

調子にのってもうひとつ例をあげよう。

社内結婚の多いことで知られているある中堅企業に，ラジオのレポートのために出かけていったことがある。

男女同一賃金をめぐって話がはずんだ時にある女性がもじもじしながらこういったのである。

「そりゃあ，男女は平等だから同じ賃金がほしいです。けど，人件費の枠がきまってる以上，女があんまり取りすぎると，その分が男にハネ返って，男の取り分が減りますよねえ。私は今，共嫁ぎだけど，子供が生まれたら退職しようと思っていますから，やっぱり，平等より，男の取り分が多い方が，長い目でみて女の幸せにつながるような気がして……」

長々と，女が女をいやしめるような事例をかき並べたのは他でもない。

こういう女の本音を無視して，平等論ばかりが先行している気がしてならないからである。

女子の管理職一パーセントという数字の裏には，女が自らこの方がいいといってつくり上げている部分もある。古いとか新しいとかではなく，女の本性や本質が長い歴史の中でつくり上げてきた「男とのちがい」もあるのだ。

この辺をていねいにとりあげていかないと男も女も居心地の悪い男女平等論ができ上ってゆくのではないだろうか。

数年前，ラーメンのＣＭをめぐって大問題がおきたことがある。

「ワタシ作る人」

と女の子がラーメンを作り

「ボク食べる人」

と男の子がそれを食べたばっかりに，男女平等論者からニラまれたのだが，男と女の問題を薄っぺらく考えることは，女にとってはもちろんのこと男にとっても不幸なことであろう。

私としては，女心をねっちりと賭けて「女の問題」を記してゆきたい。

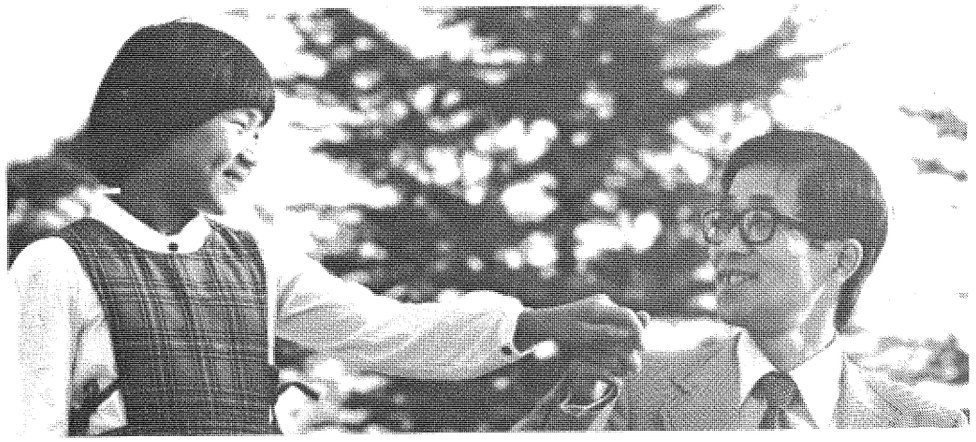
上坂冬子先生のプロフィール

東京都出身。愛知県豊田東高校卒業後，トヨタ自動車工業ＫＫ人事課に13年勤務ののち文筆生活に入る。処女作「職場の群像」著者「銀座ゆうゆう人生」「おんなの世渡り」「私ひとりのウーマンリブ」「おんなの一人旅」「意中の男」「お母さんは不思議な力がある」など。

坂　本　あゆみ
（小学４年生）

父と娘の対話 ⑭

坂　本　　隆
（福島営業所料金課）



☆ 娘 か ら 父 へ

私のお父さんはスポーツが大好きで，日曜日にはよくゴルフの練習に行きます。

冬になると毎週スキーにも行きます。これにはおねえちゃんもよろこんでついて行きます。今年からは私もつれて行って下さいね。

お父さんはわが家で一番のねぼうです。会社にはヘルメットをかぶりバイクで行きます。お父さんは今，歯が悪いのでおかゆばかりたべているので家じゅうで心配しています。早く歯がよくなるといいのになあ！

お父さんは勉強でつかうものは買ってくれますが，マンガは買ってくれません。またこのごろは少し白髪がでてきましたね。

お父さんにおねがいがひとつだけあります。朝早くおきて家族４人で一緒に食事ができたらいいなといつも思っています。いつまでも元気に仕事を続けながら，あゆみとも遊んで下さいね！。（談）

★ 父 か ら 娘 へ

あゆみは次女です。姉にしのぶがいます。あゆみは姉より女らしさがあります。お風呂に入りながら学校での出来ごと等をよくお父さんに話します。

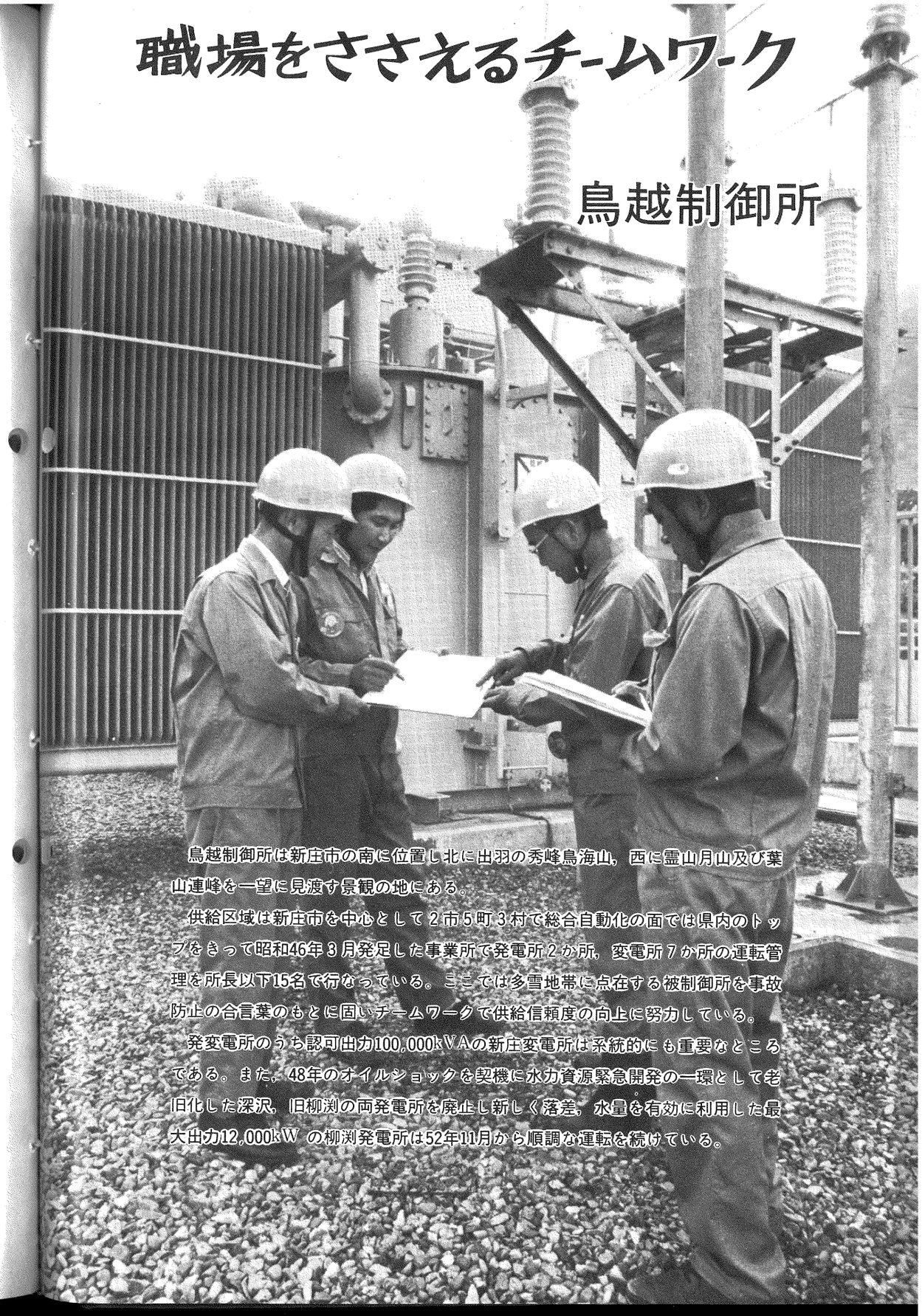
今はスポーツのシーズンですね。キャッチボールの時，相手の胸をめがけて投げるようにとお父さんは言いますね。これは一番うけやすく大切なことだと思うヨ。大人になってもお友達に対してはおもいやりのある人になってほしいなあ！

今年も裏磐梯に会社のお姉さんやお兄さんとキャンプは，元気で明るい二日間でしたね。３月生まれでまだ幼さが残るあゆみですが，このところ大きく成長したようです。今はアイススケートによく行くようですが，少しは勉強もして下さいね。

冬休みにはスキーに行くのでしょうから，今から学校周辺をマラソンで体力をつけて風邪などひかないようにね！。（談）

職場をささえるチームワーク

鳥越制御所



鳥越制御所は新庄市の南に位置し北に出羽の秀峰鳥海山，西に霊山月山及び葉山連峰を一望に見渡す景観の地にある。

供給区域は新庄市を中心として２市５町３村で総合自動化の面では県内のトップをきって昭和46年３月発足した事業所で発電所２か所，変電所７か所の運転管理を所長以下15名で行なっている。ここでは多雪地帯に点在する被制御所を事故防止の合言葉のもとに固いチームワークで供給信頼度の向上に努力している。

発変電所のうち認可出力100,000kVAの新庄変電所は系統的にも重要なところである。また，48年のオイルショックを契機に水力資源緊急開発の一環として老旧化した深沢，旧柳渕の両発電所を廃止し新しく落差，水量を有効に利用した最大出力12,000kW の柳渕発電所は52年11月から順調な運転を続けている。



所　長　佐藤　秀夫

（抱負）安全第一はむろんのこと電力の安定供給と厳しい経営環境下で変化に柔軟に対応できる体制づくりと技術的自信に裏付けられたファイトのある明るい職場づくりを進めたい。

（横顔）柔和で物静かだが内に闘志を秘めた堂々たる体格の特主。何でも話し合える職場をモットーにしおやじ1の愛称ピッタリの人柄。趣味は釣，麻雀と豊富。



副所長　小南　辰雄

水力発電所の大ベテラン。所長の良き女房役を果している。趣味は園芸，麻雀。



運転長　飯野佳太郎

豊富な知識，経験と年を感じさせない身軽さとタフさは所内随一。趣味は山菜とりでその実績はプロ並み。



運転長　木村　英男

運転，保守のベテランで即実行型。後輩の教育指導面でもかつてない当所の牽引車的存在。趣味の園芸はプロクラス。宴席での美声もまた格別。



運転長　渡辺　圭吾

明朗で物ごとにこだわらない人柄で，公私共若い人達に指導力を発揮。また運転指導員として技術，精神両面の啓発に積極的に取り組んでいる。趣味は釣キチ，麻雀。



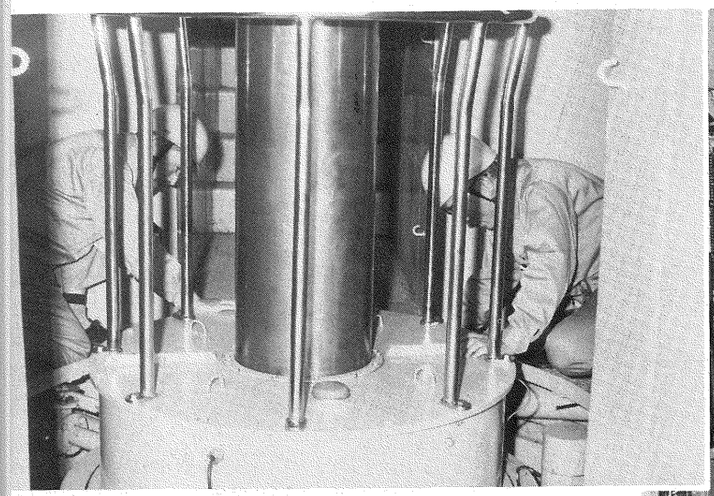
運転長　関井　吉弘

発電所経験の大ベテラン。運転業務にまた後輩の指導に積極的に取り組んでいる。趣味はパチンコ，園芸。

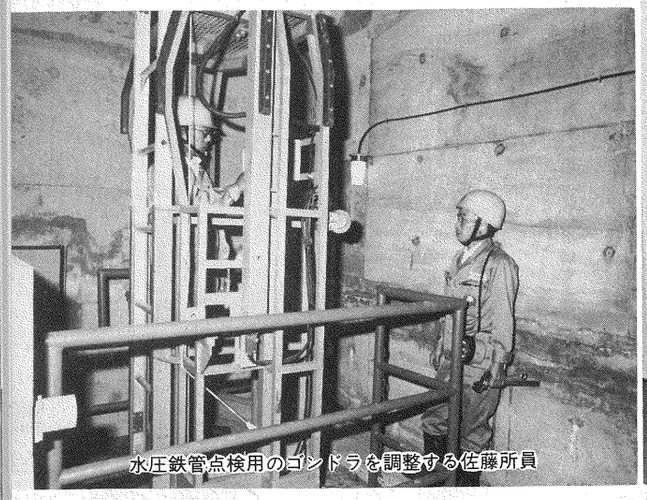


運転長　柏倉　益男

指令所，保修所，発変電所とあらゆる職場の豊富な知識と経験を生かして業務に情熱を燃やすファイトマン。趣味のカメラ，園芸はプロ級とか。



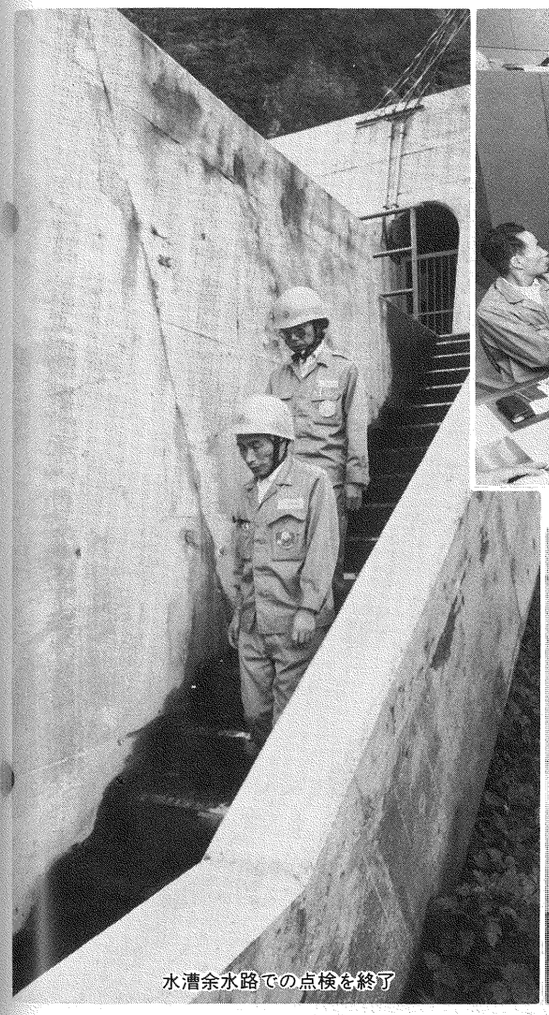
回転中の水車メタル付近を点検



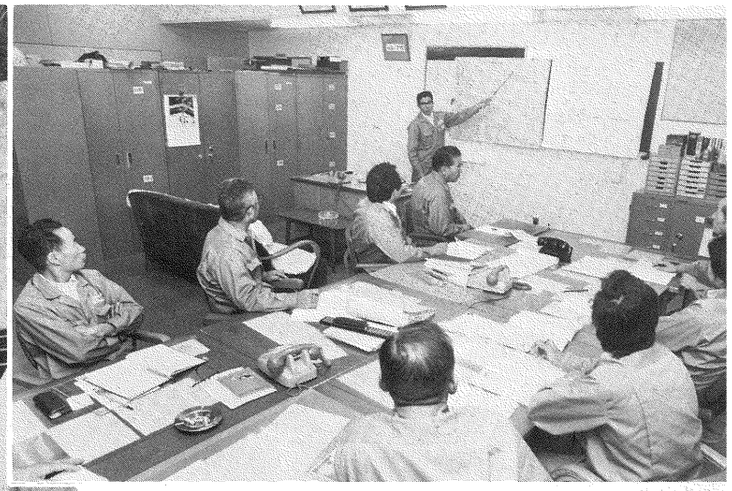
水圧鉄管点検用のゴンドラを調整する佐藤所員



発電機制御盤内の配線状況をチェック



水槽余水路での点検を終了



木村運転長の講師で活発な勉強会



心しずかに抹茶を点てる裏千家の江口さん



設楽　昭二

温厚誠実な人柄と長い豊富な経験と知識で周囲の信頼を集めている。また電力マン二代目も入社，第一線で活躍中。



江口　兼治

もの知りNo.1。発電所なら俺に任せろのファイトマン。高年，若年層のよきパイプ役。茶の湯のお師匠さんでもある。



高橋　正夫

当地区を主に歩いたベテラン。数少ない大正生れの一人で年を感じさせない気持の持主。趣味は麻雀，園芸。



片岡　弘

数少い地元出身の一人で当所の歴史，発達等はこの人しではの生字引き的存在。宅すれば息子さんの開く寿司屋に顔を出す。



片倉　健一

発変電所，指令所の経験を生かし制御所業務にファイトを燃やす若者。目下マイホーム新築中で大忙がし。



斎藤　正次

はにかみやだが気の強い性格で業務に体当りするファイトの持主。奥さん思いは愛妻家揃いの所でもNo.1。



斎藤　力夫

当所2度目の勤務。小柄だが芯の強い人。大工さんといわれるほど器用さは抜群。奥さんは寮母さん，息子さんは出張所勤務と電力マン一家。



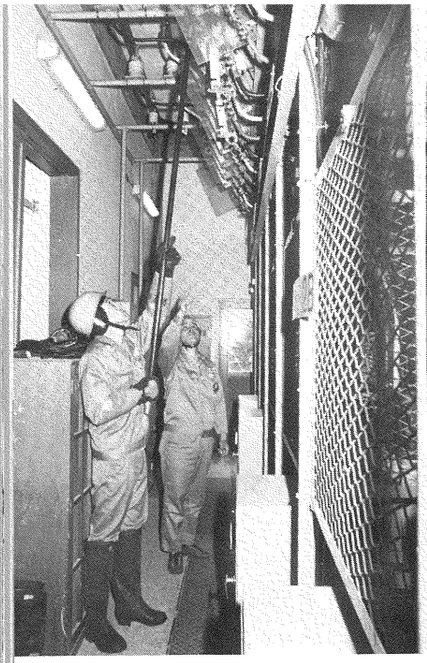
佐藤　新吾

中堅社員のお手本のようなファイトの持主で，シーケンスも電気屋並で新しい土木機器の勉強に取り組む。

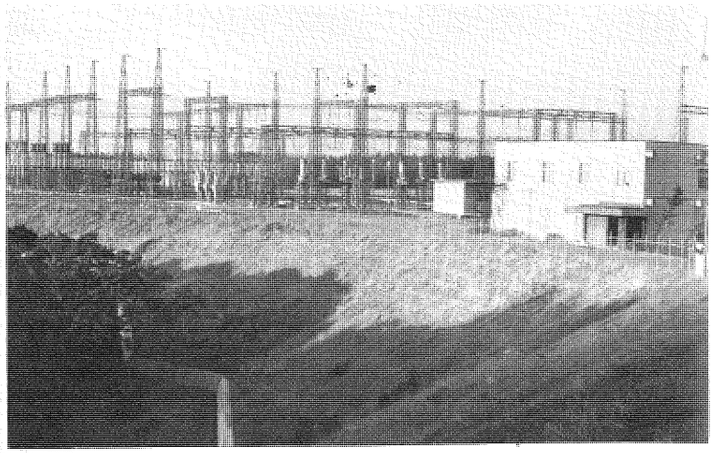


粕谷　徹

若年のホープ。当所た2種に挑戦中のドライブそれに麻雀，排球と中々の多才明朗な好青年。



配電線の断路器操作，白相入れ完了



認可出力100,000kVAの新庄変電所



154kV引出工事関係の打ち合わせを行なう



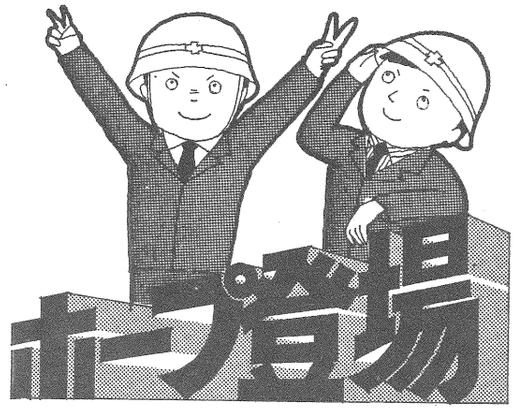
飯野運転長（左）と直勤務を行なう片岡所員（右）



運転開始以来，67年の歴史を持つ瀬見発電所

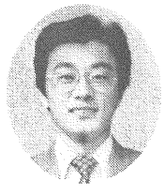


瀬見発電所のパトロールで励磁機を点検



ホープに一言

趣味を活かして地域にとけこむ



水沢営業所
営業課

嶋　　裕昭

「どこの町や村に行っても黄色い車が走っている。生活に欠かすことの出来ないエネルギー源である電気を供給している会社」といったイメージを持って私は入社しました。

以来，日常業務をはじめ需要家接触活動を通じて，当社の電気の供給が東北地方の文化や産業の発展に寄与し，地域社会の人々との結びつきを深め，信頼関係が非常に大きく掲げられていることを痛感している。

私の趣味はスキーやテニスなどでこれらを通して社内外を問わず多くの人々と交流をしている。市のスキー協会や，テニス協会の会員の人々との出合いが，私を通じて東北電力を知ってもらっているわけですから，趣味を活かしてより豊かな地域関係を築き上げ当社への理解を深めてもらいたいと思っている。

また，仕事においては現在，料金係という大家族的な雰囲気の中で仲間と共同の作業をしている。日常業務を通じ，幾多の問題にぶつかりながら，先輩，同僚とともに，連帯をより深め，努力を積み重ね，意欲的に仕事に取り組んで行きたいと思っている。

趣味や仕事の出合いの中から人と人とのふれあいを大切にして行きたい。

明朗闊達さを失わずに



水沢営業所
営業課料金係長
千葉　勇治

7月異動から彼と同じ職場で仕事をするようになってまだ3か月足らずですが，なんとなく何年も前から一緒にいたような感がする。これは彼の明るく朗らかで親しみ易いせいもあろうが，何事にも積極的に取り組む姿勢が感じられるからであろう。

仕事は料金係で本年度私達の重点課題である新料金業務定着化のため，先輩や後輩と協調をはかりながら職場の中核となって業務を進めている姿はまことに頼もしい。

仕事を離れては青年部長としてリーダーシップを発揮しており，またスポーツにおいても目ざましい活躍がみられる。今後とも明朗闊達さを失なわず自信をもって素直に伸びることを願っている。

需要対策シリーズ

＜第 8 回＞

需要対策活動を支える外部団体組織

―行政機関や消費者団体，メーカー等の協力により―

当社の需要対策活動が円滑に推進されるためには，時代時代における地域社会等のニーズに適切な対応をする必要があるとともに，各方面の方々の理解と協力を得ることが必要である。

これを支えるものに需要対策関連の外部団体組織があり，この組織は行政機関や各種団体，学識経験者，専門家等各方面の方々で構成されており，活発な活動が展開されている。

【営　業　部】

はじめに

これまでの需要対策シリーズでは，各需要分野（家庭・営業・産業・農水産・公共の各需要）の活動内容と，その意義等を中心に述べてきた。

そして，これら需要対策活動はただ単に当社企業サイドだけのニーズばかりではなく，そこには必ず地域社会やその時代時代のニーズ等が背景にあることについてもふれてきた。

今回はこれら需要対策活動の基盤を支えている，外部団体組織について紹介する。

理解と協力の上に成り立っている外部団体組織

需要対策と関連のある外部団体組織の事務局は，当社の本店・支店・営業所のサービス担当課に設置されているが，現在この組織は，次の五つの団体がある。

1. 住宅電気設備協議会
   会　長　堀　豁（宮城県消費者協会会長）
2. 電気安全東北委員会
   委員長　遠藤市彌（当社常務取締役）
3. 社団法人照明学会東北支部
   支部長　村上孝一（東北大学工学部教授）
4. 東北七県電力活用推進委員会
   委員長　齋藤　浩（当社取締役営業部長）
5. 社団法人農業電化協会東北支部
   支部長　木村秀寿（宮城県農業協同組合中央会会長）

これらの組織は，通商産業局および農政局等の行政機関や学識経験者，消費者団体，産業界の代表，メーカー等幅広い各層の方々によって構成されている。

組織を大別してみると，東北独自の組織（住宅電気設備協議会）と，全国大組織の中の地方支部（照明学会東北支部，農業電化協会東北支部）そして，地方での独自の活動を進めながら，全国の各地方に設置されている同一組織との横の連けいをはかる組織（電気安全東北委員会，東北七県電力活用推進委員会）に区分される。

さらに，東北各地域との関連性を持たせるための連けい組織があり，各支店に事務局が設置されている。

そして，支店と営業所間においても，同様な組織のつながりを持っているので，全国―本店―支店―営業所の間には，当社の業務系列のかかわりの中で，各組織が連けいされていることになる。

このように，縦横に連けいされた需要対策関



各種外部団体の発行するパンフレット

需要対策活動を支える外部団体組織

	名　称	住宅電気設備協議会	電気安全東北委員会	社団法人照明学会	東北七県電力活用推進委員会	社団法人農業電化協会東北支部
東北大組織（事務局本店サービス課）	設　立	45年9月	34年4月	28年8月	47年9月	23年7月
	構　成	宮城県消費者協会，仙台通産局等関係官庁，建築設計，施工関係団体，電機メーカー，電気工事業組合，NHK等報道機関等	仙台通産局等関係官庁，建設業関係団体，電機メーカー，電気工事業組合，電気使用者，各県委員会等	大学教授，照明器メーカー，電気工事会社等	仙台通商産業局，東北電気協会，東北電業会，東北電気保安協会，東北地方電力需要者連盟，東北電力，各県組織	東北農政局等関係官庁，宮城県農協中央会，電機メーカー，電気工事会社，各県農業電化協会等
	代表者名	会長　堀　豁（宮城県消費者協会長）	委員長　遠藤市彌（当社常務取締役）	支部長　村上孝一（東北大学工学部教授）	委員長　齋藤　浩（当社取締役営業部長）	支部長　木村秀寿（宮城県農業協同組合中央会長）
	全国組織		電気安全全国連絡委員会（事務局　日本電気協会）	社団法人照明学会（本部）（事務局　同上）	電気使用合理化全国連絡委員会（事務局　日本電気協会）	社団法人農業電化協会（本部）（事務局　同上）
各県組織事務局支店営業課		○○県住宅電気設備近代化協議会等	電気安全○○県委員会等	○○県明るい街づくり運動推進協議会等	○○県電力活用協議会等	○○県農業電化協会
各地区組織事務局営業所サービス課営業課		○○地区家庭電気協議会等	電気安全○○地区委員会等	○○市街を明るくする運動協議会等	○○地区高圧電力協議会等	○○県農業電化協会○○支部等



宮城県住宅電気設備協議会の省エネルギーを考えた住まいと電気設備展

連の外部団体組織は，単に当社企業のみのニーズだけではなく，各関係機関をはじめとする各層の方々のニーズと合致し，これが，この方々の理解と協力のうえに成り立っているということがいえる。

家庭用需要を支える
〝住宅電気設備協議会〟

この組織は，電化生活に即応した住宅建築や，安全，かつ省エネルギーを踏まえた電気配線設備そして，電化機器の正しい使用方法等の啓もう普及をはかり，東北地域の家庭生活，文化の向上をはかることを目的としている。

東北地域における住宅建設は，今年の３月に発表された東北開発促進計画等で示されているように，ますます増加されて行くものと予想されているが，単に住宅の増加に対応するばかりではなく，質的に充実をはかって行くと同時に電気設備面でも対応させて行く必要がある。

住宅電気設備協議会と同様な性格を持つ各地域の組織には，例えば，福島県家庭電化推進協議会や，青森県住宅電気設備近代委員会があり，新築住宅対策のほか，既設住宅対策，電気機器の有効利用のＰＲ等をはかっている。

主な事業項目は次のとおり。

1. 住宅の断熱化と住宅電気設備の充実をはかるためのＰＲ活動
2. 住宅電気関係設備の調査・研究活動
3. 関係者の住宅電気設備に関する知識・技能の向上をはかるための講習会
4. モデル住宅コンクールの実施
5. 軽電気工事サービスセンターに対する協力活動

電気の災害・事故防止をはかる
〝電気安全東北委員会〟

この組織は，その名のとおり電気安全と事故防止をはかるとともに，電気知識の普及を目的としている。

国民生活の向上，産業の進展などに伴い，電気利用の高度化，多様化が進み，電気の安全を確保する活動はますます重要になって来ている。

電気安全東北委員会のもとに，各県にも同様の委員会が設置されており。また，全国の各地方組織との連けいをはかるため，電気安全全国連絡委員会があり，電気安全強調旬間等の行事が全国統一で行なわれている。

主な事業項目は次のとおり。

1. 建設業界・児童・生徒および一般家庭を対象とした電気安全等に関するＰＲ
2. 電気工事業界に対する安全作業ならびに適正工事に関する講習会の開催
3. 自家用電力使用事業場に対する電気安全等に関するＰＲ
4. 電気安全強調旬間の実施
5. 電気保安功労者の推せんと表彰（通産局長賞，通産大臣賞）

6. 市販電気用品の調査

各需要の照明分野を支える
〝照明学会東北支部〟

この組織は，照明や熱その他一般の放射に関する研究と普及促進をはかることにより，学術の発達や，技術の向上に寄与することを目的としている。

東北地方における照明施設のレベルは，他地方に比較してまだまだ改善や向上すべき余地を残していることから，全国組織に先がけて照明指導員の通信講座や，認定制度を実施している。

各県には，この照明学会と直結した組織はないが，関連組織としては岩手県明るい街づくり運動推進協議会等があり，防犯灯の設置指導や照明診断等を通じて地域社会に対しての積極的な活動が行なわれている。

主な事業項目は次のとおり。

1. 照明指導員通信講座と認定
2. 工業高校教員・経営指導員照明講習会および各種講習会の開催
3. 省エネルギー照明の手法に関する調査・研究
4. 各種施設の調査・研究
5. 照明普及賞の推せんと表彰

産業用を中心とした需要を支える
〝東北七県電力活用推進委員会〟

この組織は，工場などの産業用需要を中心に電力の有効利用の促進をはかることを目的にしている。

とりわけ，産業界に対する電力の有効利用については，省エネルギー法（エネルギーの使用の合理化に関する法律昭和54年法律第四十九号）が今年の10月から施行され，ますます，この委員会の活動が注目されている。

この委員会は，独立して組織されているが，各県にある同様な組織との連けいを維持するために，委員会の構成メンバーの中に，各県組織が入っている。また，全国の連絡組織としての電力使用合理化連絡委員会があり，この連絡委員会は，財団法人省エネルギーセンターの事業の委託を受けていることから，この系列を通して，各地方組織での事業も進められている。県大組織としては，新潟県電力活用推進協議会等がある。主な事業内容は次のとおり。

1. 電力有効利用に関する講習会・体験発表会
2. 省エネルギー月間行事
3. 地場産業に対する電力有効活用の調査・研究
4. 電力活用優秀者の表彰ならびに推せん（通産局長賞，通産大臣賞）
5. 財団法人・省エネルギーセンターの事業受託

なお，この組織活動を進めるにあたっては，(財)省エネルギーセンターとの提携が省エネルギー法の施行に伴い，ますます重要なものになってきている。

従来は，電力・石油・ガス等の産業活動に必要なエネルギーの有効利用については，各々のエネルギー供給機関等によって独自に進められてきたが，これらを統合し，総合エネルギーとしての省エネルギーを進める観点から，昨年の10月に全国組織として発足したもの。この発足と同時に東北支部（支部長　当社　若林社長）が，エネルギー消費の多い工場や電機メーカーなどの構成により設立され，総合エネルギー診断サービスをはじめとして講習会・研修会，そして各種資料の配布等の活発な事業を展開して

いる。

農水産用需要を支える〝農業電化協会東北支部〟

この組織は，農業，漁業に対する電力の導入や，有効利用を通じ，明るい農山漁村づくりをはかることを目的としている。

設立当時は，農山漁村の未点灯部落の解消に一役を荷ない，また，農業の手作業から，電化，機械化の導入を進め，農山漁村の生活向上に寄与してきた。

最近は，世界の食糧需給との関連や，省エネルギー時代を背景に，農業施設の高度利用，省エネルギー化が進められている。

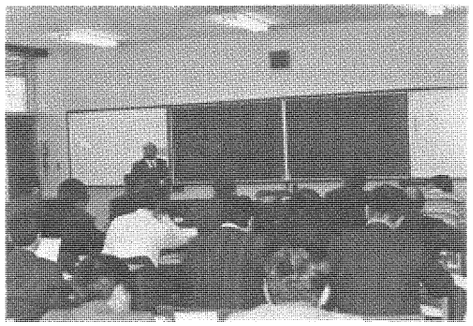
東北支部には，各県農業電化協会が会員として加入しており，支部と連けいをとりながら各県地域で活発な活動を行なっている。

主な事業項目は次のとおり。

1. 農水産電化施設の効率使用のＰＲ
2. ネット・レイナーの普及促進
3. 農業指導者・農業関係者等を対象とした農水産電化等に関する講習会，研修会の開催
4. 電気利用優良家コンクールの実施（農政局長賞）
5. 農電功労者の推せんと表彰（農林水産省農蚕園芸局長賞）

組織の一層の強化・充実を

定住圏構想に基づく東北地域の開発促進，そして石油需給のひっ迫等による省エネルギーの推進等，時代によって変遷する社会のニーズに適切に対応させ，また，各層の理解と協力を得た需要対策活動を進めるためには，ますます，



農業電化協会東北支部の農電セミナー

外部団体組織のもつ意義は重要なものと考えられる。

外部団体組織の事務局を受け持つ当社にとって，その組織の活用を十分にはかることが需要対策を円滑に進めるうえでの必要条件であり，形骸化した組織にならないよう，関係者の豊富な経験と知識，技能さらには旺盛な活動力を十二分に生かし充実・強化して行く必要がある。

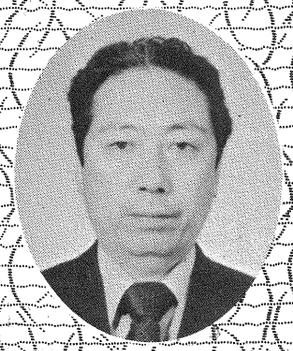
以上，当社が事務局を持つ組織の内容について述べたが，需要対策の活動はこうした組織だけにとどまるものではない。

各地域に組織されている，商工団体，農業漁業団体あるいは，自治体，婦人会等とも密接な連けいを保ちながら，共同行事等を活発に開催しているが，今後もこうした組織を含め，より効果的に，より広範な需要対策活動を推進する必要があり，そのためには，お互いの持っている特徴を十分に生かしながらひとつ，ひとつ着実に進めていきたいと考えている。

※　次回は「総合キャンペーン」について掲載する予定です。

〈海外視察レポート〉

欧州における石炭火力発電所の実態を調査



―見直されている石炭の利用―

火力部　岩井調査役

〝エネルギー問題〟はいまやグローバルな最重点課題の一つであることは今更取り上げるまでもないものである。

ところが，この問題に対して従来は精神論的な対応になりがちであった。しかし本年５月，国際エネルギー機関（ＩＥＡ）閣僚理事会は，イランの政変に端を発した世界的な石油不安に対応して具体的な施策を含んだ共同コミュニケを発表した。更に６月，東京で開催された先進国首脳会議（東京サミット）においてもエネルギー問題について意見の交換が行なわれ，エネルギーの節約，石炭の見直し，核エネルギーの利用，代替エネルギーの開発等石油消費の抑制施策についての決議がなされた。このような国際的な動きは，〝エネルギー問題〟が全人類の当面する最大の問題であることを再認識させるとともに，具体的な施策の必要性を意識付けたものである。

こうした背景の中で，石油に代る代替エネルギーのトップバッターとみなされる石炭の利用についてヨーロッパ主要国の現状を知ることは今後の具体的な施策に参考となることから今回の調査団が編成され，７月14日から30日にかけて欧州５か国を訪問したのでその概要を紹介する。

1. 調査団の構成と行程

今回の調査団は，四国電力常任顧問の阿部要氏を団長とする一行22名で，その構成は電力関係６名，機器メーカー11名，建設業その他５名となっており，荷役機器，運搬機器等の設計・製作関係者が多く見られるのがひとつの特徴であった。

訪問国，訪問先については出発前の打ち合せで各参加者の意見を入れて決定したが，限られた期間内に出来るだけ多くの施設を見学しようということでかなりハードなスケジュールであった。

行程は<図－１>のとおりで，成田発→イギリス→オランダ→フランス→西ドイツ→チェコスロバキア→成田着と５か国を歴訪，訪問先はイギリス３か所，オランダ１か所，フランス１か所，西ドイツ３か所，チェコ１か所の計９か所である。その内訳は，英国電力局などヘッドオフィス３か所，火力発電所５か所，コールセンター１か所で石炭を取り扱かう現場を主体に計画した。現地についてから，受入側の都合で訪問先の変更を余儀なくされたものが２か所あったが，ほぼ計画通り訪問することが出来た。

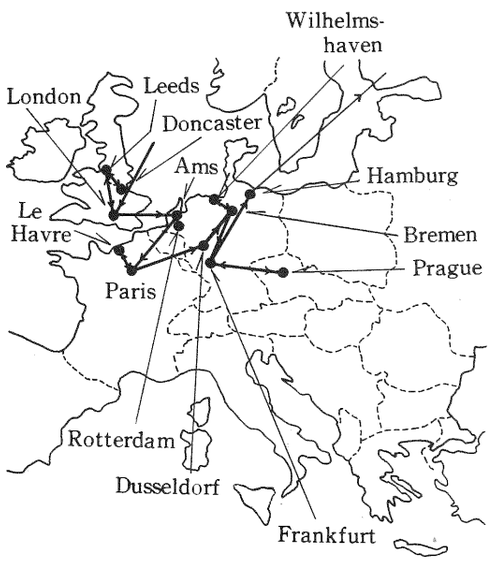
2．訪問先の概要

先に紹介した行程順に各国の訪問先についてその概要を述べてみたい。

(1) イギリス

イギリスの電気事業は，ほぼ全面的に国有化されている。正確にはイングランド・ウェールズ，スコットランド及び北アイルランドの３地域に分けて，前２地域は国が，北アイルランドは公・私営共存の形で事業が行なわれている。

<図－１>　経　路　図



私達はイングランドの火力発電所１か所とヘッドオフィス２か所を訪問した。

a．エグバラ（EGGBOROUGH）発電所

今次調査団の最初の訪問先であり，期待と不安が渦巻くような気持で訪れたためか，又発電所長以下非常に親切に応待してくれたこともあってか最も印象に残る発電所のひとつである。

当所は，ヨークシャの産炭地に近く大量の石炭供給が得られる地の利を生かして，ＣＥＧＢ（中央電力局）が建設したもので，1962年着工，1967年に送電を開始している。

500^{MW}×４台，総出力2,000^{MW}の英国では最大級の発電所のひとつである。更に起動及びピーク用電源として17.5^{MW}×４台のガスタービン発電設備を持っており，発電所で使用する石炭はその大部分をＮＣＢ（石炭局）が供給している。

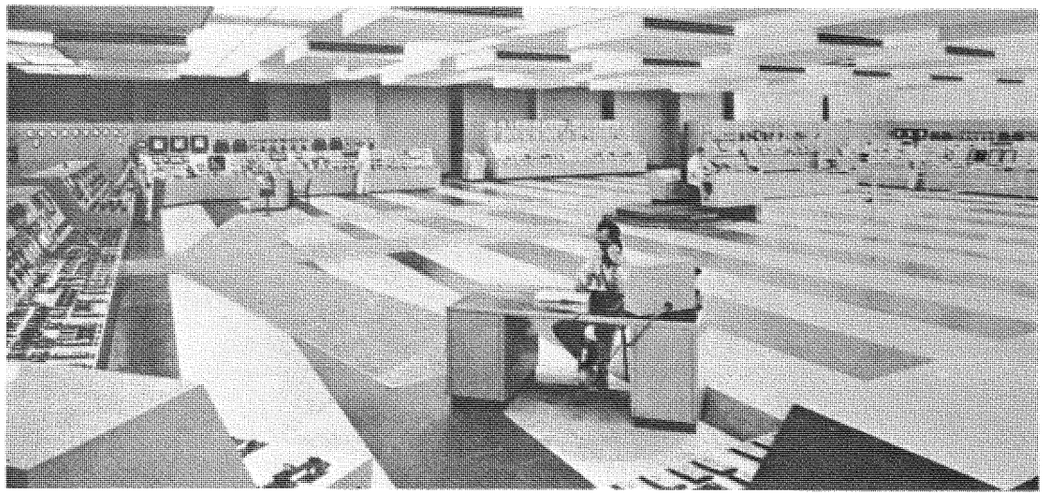
産炭地から発電所まで貨車で１時間程度とのことで実にうらやましい限りである。

石炭を積んだ貨車は30両位の編成で構内に入り，列車は止ることなく所定の所に自動的に石炭を荷おろしし，そのまま産炭地に帰って行くという方法がとられており，このシステムをその形態から〝メリーゴーランドシステム〟と呼びＣＥＧＢ自慢のもののひとつである。１列車約1,000トンの石炭を全部荷おろしするのにかかる時間は45分程度とのこと。

発電所の最大石炭使用量は約19,200トン/日であり，貯炭場は広さ15ヘクタール，175万トンの貯炭能力を持っている。これは必要量の約15週間分（連続最大で約13週間分）に当たる。

設備，運用面でいろいろ特徴的なものがみられたが，誌面の都合でひとつだけとりあげるならば，コントロールルームのレイアウトをあげることが出来る。正確な数字ではないが40メートル×30メートル程の広さがあり，壁面に沿って４ユニット分のコントロールパネルが配列され，部屋の中央部に指令台が置かれている。指令台上には給電機関と結ばれたディスプレイ装置が置かれ，日負荷予想，負荷配分等が目で確認出来るようになっている。

運転管理上の良し悪しは別として大変興味深く，



エグバラ発電所中央制御室（４ユニットが１ルームで制御されている）

すばらしいものに思えた。

b．ＣＥＧＢ－Central Electricity Generating Board－（中央電力局）

イギリスの電気事業はエネルギー大臣の統轄のもとに行なわれている。

イングランド・ウェールズにあっては電気評議会，ＣＥＧＢ，配電局の三機関が電気事業活動を分担しているが，その中でＣＥＧＢの役割は発・送電設備の計画・設計・建設及び運用管理である。従業員数は約６万人強でその半数近く約３万人弱が発電所の運転・保守に従事している。

ＣＥＧＢの電源構成は全設備の約92％が火力発電でその中でも混焼を含めれば７割以上が石炭火力で，英国の特徴が表われている。

石炭火力における環境問題，灰利用問題については次のように話してくれた。

「当面している環境問題は，ばいじん，SO_x・NO_xの二つである。前者は高効率集じん器の採用，後者は高煙突による拡散で対応している」実に常識的な説明でいささか落胆したが確かに煙突の高層化には相当力を入れているようであった。(先に訪問したエグバラ発電所の煙突は200メートル)灰の利用について一般的には，埋立て，ビルディングの建築用材，土壌改良，肥料として使われているが更に，道路舗装，セメント混和，ブロック用材等にも利用するようにしているとのことであった。

c．ＮＣＢ－National Coal Board－（石炭局）

1945年石炭産業国有化法によって英国の石炭資源の有効開発を目的として設立された機関で，国の直接機関ではないとのことから日本の国鉄あるいは公社のような存在かと考えられる。

事業内容は，採炭，コークス製造，石炭による化学工業，石炭の販売などであるが，主体は採炭である。従業員は約30万人で，約29万人が炭鉱関係に従事している。石炭生産量は，約1.2億トン／年で，炭鉱数は約220，一人当りの出炭量は約450トン／年である。

エネルギー問題について種々説明を聞いたが，要約すれば次のとおりである。

- ○イギリスの石炭埋蔵推定量は約450億トンであり約300年分に当る
- ○北海油田の油質は非常に良いが，10～15年程度と見ている
- ○石油に代る代替エネルギーとしては長期的には原子力と考えているが，当面のものとしては石炭と断言している
- ○石炭燃焼方法としては当面，従来方式を続けて行くが，加圧流動床燃焼炉の開発研究に努めている
- ○石炭のガス化・液化については，将来石油が枯

渇した時に，石油でなければならないものに対処するという考え方で研究を進めている

いづれにしても，自国資源が豊富であることから説明内容にも自信とゆとりが感じられた。当日はＮＣＢの会長（ＳＩＲの称号のついている人で相当偉い人）がわざわざ私達のミーティングに出席し挨拶をされた。その挨拶の中で大変印象に残った。

「先の産業革命で工業化に対して石炭の果した役割は非常に大きなものがある。今や石炭による第二次産業革命が起ころうとしているといえるのではないだろうか……」

(2) オランダ

オランダでは私達が通称コールセンターと呼んでいる石炭を含む鉱石類を扱かう大規模な船荷集積施設を見学した。

a．ＥＭＯ社（Europees Massagoed Orers-lagdegrijf）

EMO社はドイツ２社，フランス１社およびオランダ１社の計４社共同出資により1970年設立された荷役専門会社である。

当社はロッテルダム港の２か所に荷役埠頭を所有しているが，今回はその中のひとつ，Maasvlakteという集積地を見学した。

Maasvlakteは，ロッテルダム市内から約50キロメートル離れたユーロポートの一角にあり，海水埠頭（250,000^{DWT}）で石炭あるいは鉱石を積おろし，淡水埠頭(2,800^{DWT})又は鉄道へ積み替える施設を有している。1973年に運転を開始し，年間荷役量は約1,800万トンである。ストックヤードの広さは67ヘクタールありストック能力は600万トンであった。

周辺を含む施設の広さ，設備の大きさには驚かされたが，私達の関心事である貯炭管理については，荷主の依頼で発火予防の為の圧縮貯炭を行なっている程度で，粉じん飛散，排水対策等にはあまり関心が示されていないように見受けられた。

(3) フランス

フランスでの訪問先は，ル・アーブル発電所１か所だが，ＥＤＦ本社から担当官が来たので全体的な説明を聞くことが出来た。

フランスの電気事業は，1946年一部を除き国有化され，ＥＤＦ（Electrcité de France ―フランス電力公社）が設立された。

ＥＤＦの持つ火力発電設備は，発電所40，総出力23,000MW強であり，重油火力20，石炭火力20となっている。また水力・火力・原子力の設備比率は約38：51：11である。

フランスの年間石炭消費量は45×10^6トン（内発電用16.6×10^6トン）でその約半分23×10^6トンは国内炭で残りは輸入炭である。石炭の輸入先は，南アフリカ，ポーランド，西ドイツが主でその他オーストラリア，カナダ等からも入れていた。

当面する石油危機に対処する基本的な考え方は，石炭よりも，原子力開発を進める方針であると話していた。

a．ル・アーブル（LE・HAVRE）発電所

パリの北西約150キロメートルに位置する美しいル・アーブル港に臨んだところに当発電所がある。

港は25万トンタンカーが着岸出来るところで，発電所は６ユニット設置の計画で進められて来たが現在は１～３号機が運転に入っており，４号機は1982年に運開の予定で建設中である。５，６号機は未定になっている。１号機250MW，２～３号機600MWで総出力1,450MW。ＥＤＦでは３番目に大きな発電所である。使用燃料は１～２号機が石炭及び重油，３号機が重油専焼である。

貯炭場の広さは約６ヘクタール，有効貯炭能力は20万トン，使用炭はすべて輸入炭で南アフリカ，オーストラリア，カナダのものが入って来ているとのこと。貯炭管理はここでも日本のようなキメ細かさは感じられなかった。

(4) 西ドイツ

西ドイツの電気事業者は約1,100と非常に多く，企業形態も公営，公私混合営，私営があり大変複雑である。

西ドイツもイギリスと同様，石炭に恵まれた国で，全発電設備の約60%を石炭火力が占め，石油火力は約10%となっている。しかし，豊富といわれるルール地方の石炭でも，人件費の高騰からその価格は輸入炭の約２倍になっているとのことであった。

今回は，ルール炭田のショルベン発電所，ケルン地域の褐炭を使用するノイラート発電所及び輸入炭を使用しているウィルヘルムスハーフェン発電所と夫々タイプの違う３か所を見学した。

a．ショルベン（SHOLVEN）発電所

ＶＫＲ（VEBA Kraftwerke Ruhl）社所有の発電所で，Ａ～Ｆの８ユニットからなり，Ｆ号機は試運転中，Ａ号機はかなり古いもので運転は行なっていない様であった。Ｂ～Ｅの４ユニットが石炭焚き各370MW，Ｇ・Ｈの２ユニットが重油専焼で各714MW，試運転中のＦユニットが石炭焚き740MWでＡ号機を除いて総出力3,648MWと実に大容量の発電所である。以下，特徴点を列記する。

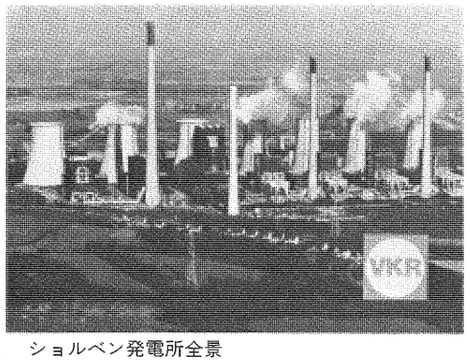
○煙突の高さはＢ～Ｅ号機240メートル，Ｇ・Ｈ号機300メートル，Ｆ号機が200メートルとバラバラである。Ｆ号機には¼容量の排脱装置（湿式・生石灰―石膏法）を付けたので他機よりも低くしたとのことで理論的なドイツらしさが伺える

○ボイラはこれもドイツ的なスパイラルタワー型でＦ号機の場合，ボイラルーフで118メートルもの高さがある

○給水ポンプが主タービンのトップにあるギャで２軸に分割され，½容量のものが２台設置されている

○コントロールルームは１ユニット１ルームで英国のエグバラ発電所と対象的である

○灰の有効利用の為，Sinter と称する装置を持ち，灰を焼成，ペレット状にしたものを軽量骨材として売却している。



ショルベン発電所全景
（一番高い煙突が約300メートル）

b．ノイラート（NEURATH）発電所

西ドイツの電気事業者の中で最大手のＲＷＥ（Rheinish Westfäeisches Electrizität-swerk）社の所有で，ケルン市西方にある褐炭焚き発電所群の中のひとつである。

発電設備は300MW×３台，600MW×２台の５ユニット総出力2,100MWである。なお将来，600MW×２台の増設計画があるとのこと。使用する褐炭は近接する Fortner 露天堀褐炭炭鉱より供給されており，本稿ではこの露天堀炭鉱について紹介する。

Fortner の露天堀は，幅６キロメートル，長さ５キロメートルの広さがあり，表土層が30～35メートル，炭層が約90メートルあり100メートル以上の深さで堀り進められ，採炭ながら埋炭しも同時に行ない除々に移動する方法をとっている。

現在の出炭量は11万m^3／日でノイラートを含む二つの発電所に供給している。

このような露天堀は長期的な計画により進められ，採炭後は地形的に完全に復元し，林又は農地等に戻すことを原則としている。

発電所の近辺にも，復元後植林を行ない30年を経たという見事な林を見ることが出来た。

Fortner の炭鉱も現計画では2,070年には全部堀り終り，その後に34キロメートルの飲料水貯水地を作ることになっている。案内をしてくれた担当者の話ぶりに「自然を作る」自信が感じられ印象に残った。

c．ウィルヘルムスハーヘン（wilhemshaven）発電所

西ドイツ北部の歴史都市ブレーメンの北約100 kmにあるNWK社の発電所である。

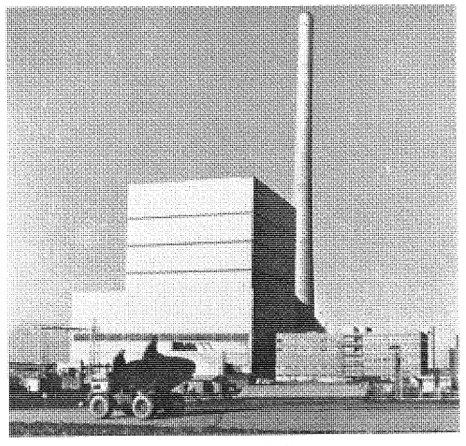
NWK社では当発電所の計画に際し次の点を重点項目として設計した。

○負荷調整火力としての充分な機能を持たせる
○各種の輸入炭及び重油を燃焼する
○排煙中のダストを75mg/m³n，SO_2を5T/H以下とする
○発電所より2キロメートル離れた地点にて30 dBA の騒音値とする

この結果，当所は1976年９月営業運転に入り，西ドイツの誇る最新鋭プラトンとして好調な運転を行なっている。発電設備は720 MW １機で主として輸入炭を使用することとしているが，重油専焼も可能な設備としているが，重油専焼も可能な設備となっており，10万キロリットルの重油タンク２基を設置している。

石炭の輸入先がポーランド，南アフリカ，オーストラリア，インド，中国，カナダ，アメリカ等と多いため，貯炭場では炭種別に山を作り，２条のコンベヤーで所定のＳ分を基準にラインブレンドを行ないボイラバンカーに送炭するようにしている。

新しく，１ユニットプラントのためかドイツらしい機能美を感じさせる発電所であった。



ウィルヘルムスハーヘン発電所全景
（1976年９月運開，ドイツの最新鋭火力）

(5) チェコスロバキア

チェコでは，プラハ郊外にある燃料研究所を訪問した。これ迄は一人の通訳が日本語に直接訳してくれたが，ここでは，まずチェコの通訳がチェコ語を英語に変え，当方の通訳がその英語を日本語にしてくれるという形となり対話には通常の３倍以上の時間がかかった。しかし私達とのミーティングのために研究所長以下10名を越す責任ある立場の方々が出迎えて“熱烈歓迎”を受けた。

a．チェコ燃料研究所

ミーティングの中から特徴的なものを列記する。

○発電のための石炭ガス化は現在まだ研究に着手していないが，将来は必要になる技術であろうと考えている
○流動床燃焼については現在研究を進めており将来性のある方式と考えている
○在来の発電方式では脱硫が問題になっている
○将来は乾式と考えているが，日本の脱硫技術も相当進んでいるので勉強したい。（湿式脱硫に関する日本の資料をほしいとの依頼があった）
○チェコの主エネルギーは褐炭で褐炭は灰分が多く，灰の利用についても研究を進めている

共産圏の内情は仲々理解しにくい点所があるが，少くとも今回出席された方々は新しい技術を吸収しようという意欲が見られ，また私達との対話も非常に短いものではあったが技術の世界には国境がないことを再認識させられた。

お わ り に

欲ばりスケジュールの調査団であったため，本稿もカケ歩記になってしまった。見聞したこと，感じたこと，まだまだ沢山あるのですが誌面にも限りがあり，どうにもまとまりのない記事になってしまったこと。自分の目や耳で直接見，聞きすることの価値を改めて認識させられ，しものの見方・考え方」の貴重な糧となる体験であったと思っている。

忘れられない本

「地名の研究」



青森支店　土木課
尾　形　浩　一

私は昨年７月の異動で青森支店に勤務して以来，初めて西津軽方面の発電所の点検のために車で出掛けた。青森空港経由の県道を行き青森市を外れ浪岡町に入るとすぐぶつかる部落が王余魚沢部落である。

非常に珍らしい地名に私は何となく遠い記憶に引っかかるものがあった。同行のMさんから「カレイ沢」と教えられ，ハッと思い出した。若い頃興味をもって読んだ柳田国男の「地名の研究」にこの地名の由来などが書かれてあった。連休で帰仙したとき埃をかぶった本棚の角から探し出し，再度読み返し地名の由来と土地柄との結び付きにいろいろと想像をめぐらし暫くの間飽くことがなかった。大変一人合点な話なのでこの「地名の研究」から引用して註釈を加えるとこの王余魚沢もかの有名な信州の軽井沢と同列系統の命名であろうかと想像される。

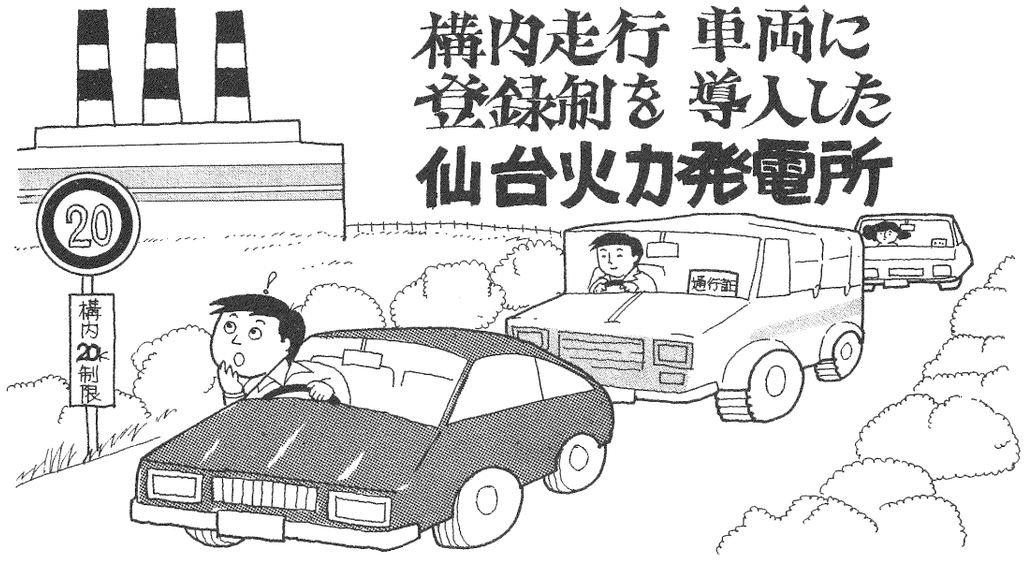
元来，日本の地名の由来を大別すると自然地名(1)，利用地名(2)，記念地名(3)，の三種類に大別できる。自然地名はその土地の野・山，沼・沢など自然の地形より命名されたもので地名としては古くからあり全国共通のものが多く，利用地名は人が土地を利用する必要から命名されたもので，千差万別の理由から成り立ち民俗学的にも最も興味が深いとされている。記念地名については省略するがこの王余魚沢の場合はこの(1)の分類，即ち涸溪（カレサワ）よりの転化か，あるいは(2)の分類，軽子沢（地形急峻で物の輸送に車馬は役立たず人が背負う，即ち軽子を使う）からの転化かいずれにも当てはまりそうでもあり，もう少し深い考察が必要なので機会をとらえ土地の古老の話，あるいは郷土史などで私なりに解明したいと思っている。

日本の地名の由来は
民俗学的にも興味深いもの

私とこの本とのめぐり逢いは大分古く学生の頃，山形の左沢出身の同級生がおり，最初，左沢の漢字が読めずその後は半ば比喩をこめてヒダリ沢で付き合っていた。ある時なにかの雑誌で見た柳田さんの「地名考説」の一章にこの由来などが詳述されており，これらが収録されていた「地名の研究」を入手したものである。

東北地方は特にアイヌ系の命名などいろいろ複雑な地名が多いようであるが，転勤した先々などで珍しい地名に出逢いそのいわれなどを知ることができたときはその土地に対する愛着が一段と増し，地域とのつながりが心の底から湧いてくるような気がする。

構内走行 車両に登録制を 導入した 仙台火力発電所



火力発電所で専用する敷地はその性格上，他の事業所の敷地より広大で，発電用諸施設を結ぶ構内道路は重量物運搬に適した形で縦横に施設されている。

また構内には，関連会社の事業所も数多く設置されていて，それぞれ作業用大型車両を駆使して，各種作業に従事している。

こうした中で，もし車両の運転に携わる者の意識のどこかに，専用構内であること，走行車両のほとんどが発電所運転に関連した車両であること，道路施設を含めた走行環境も一般の道路に比べれば比較にならないほどゆとりがあることなどが相乗的に関連して気楽さが発生し，それが災害発生の誘因となるならば大きな悔いを残すことになりかねない。

したがってこうした構内敷地での，車両の安全運転管理にあたっては，構内関連会社との協力体制のもと情報交換を行なうことはもとより，相手側に影響を与えるような作業や行事が予定されている場合には，充分な対策を立て周知徹底をはかり，はじめて実施するなど，他事業所とは違った施策が構じられている。

今回は，構内敷地での車両事故防止対策の一つとして，仙台火力発電所で実施している車両の登録制について紹介する。

【労　務　部】

仙台火力発電所構内の人と車の動き

仙台火力発電所は昭和34年11月に運開した敷地面積336,000平方メートル，発電設備52万５千キロワット（17万５千キロワット×３台），構内主要幹線道路延長３キロメートルをもつ石炭・重油混焼の発電所である。

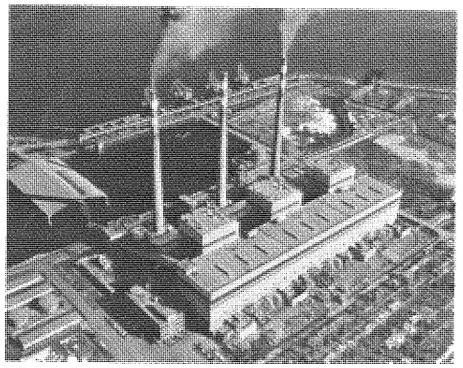
構内では，発電所運転業務に携わる当社従業員177名のほか，関連会社13事業所の常駐職員約360名が，大型作業車約70台を使用して灰捨て，およびフライアッシュの運搬，ならびに揚油，揚炭作業，さらには発電所関連設備の補修作業に従事している。また設備の定期点検とか，改良工事などの臨時的作業が加わるとその規模に応じ，作業員，作業車両が増強されることになっている。

一方，発電所の施設見学に訪れる地域諸団体とその輸送車，通勤用マイカー，外来車等の頻繁な走行状況を考慮し，構内での車両事故防止の協力が是非必要であることから，発電所運開以来，当社と関連会社が一体となった努力が続けられてきた。

ある事故を転機に

こうした中で，昨年構内の変則交差点で発生した車両災害を一つの転機に，構内での車両運行管理体制を見直し，更に災害「0（ゼロ）」へむけ大きな飛躍を遂げるため，社内はもちろん構内業者安全協議会を通じ，関連会社を含めて「なぜ」「どこに問題があるのか」「どうしなければならないか」等々について安全の原点に立って真剣に取り組んできた。

その結果，数多くの場で，多くの意見が出され討議されるとともに構内走行車両の実態を把握することが出来た。



総出力52万５千キロワットの仙台火力発電所

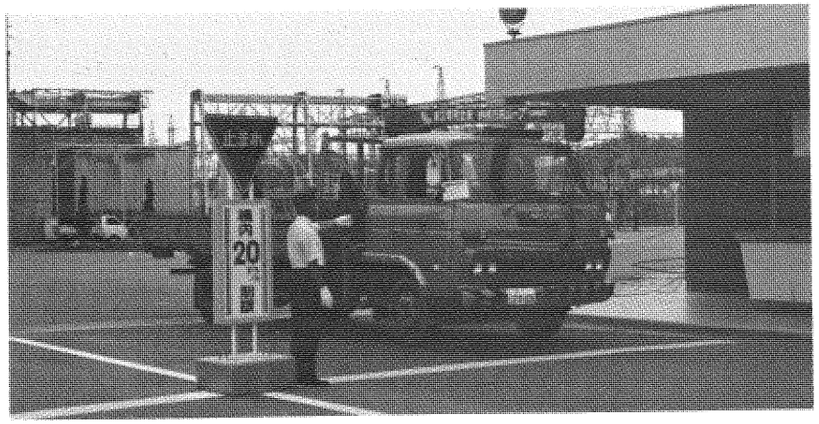
構内走行車両の実態を把握

構内を走行する一般的な車両の実態を，関係所属機関ごと，走行目的に区分整理し，安全で効率的な標準使用路線がないかを検討した。

1．当社関係車両は
　1）社有車～業務用
　2）マイカー～通勤用マイカー
　3）外来車～施設見学，業務連絡，来客送迎
2．関連会社関係車両は
　1）社有車～業務用
　2）工事用作業員輸送用～作業用
　3）マイカー～通勤用マイカー
　4）外来車～業務連絡，資材納入，来客送迎

以上の７種類であるが，車両安全運行管理要領の適用を受ける当社の社有車を除き集約してみると，関連会社業務用車，工事用作業車，通勤用マイカー，外来車の４種類となりその行動範囲と主なる使用道路は

3．走行目的から考えられる使用路線
　1）関連会社業務用車
　　業務の内容から構内路線の全域
　2）工事用作業車
　　施設の配置状況から主として使用される路線



工事関係車両証の提示のもよう（仙台火力発電所構内）

は，構内中央部，縦横に延びる路線がほとんどである。

3） マイカー

会社業務には使用しない通勤用マイカーであって，守衛所からサービスビルをはじめ，関連会社のすべての事業所が構内外周路線上に近接して配置されている関係からこの外周路線が使用されている。

4） 外来車

その目的から関係事業所へ直行することが建て前で，通勤用マイカーと同じコースが使用されている。

車両登録制の発想

この実態を踏まえ，構内走行車両にかかわる災害を未然に防止するため，走行状態が的確に把握でき，運行の指導も徹底して行なえるものとして車両の登録制が考えられた。

◇制度導入の前提として◇

1. 構内案内板～道路標識を全面的に見直し，取り替え，取り付け位置の変更，増設等の再整備を行なう。
2. 工事用作業車とマイカー～外来車の交錯を避け，安全にして円滑な運行を確立するため原則的な走行路線として前者には構内中央部の東～西，南～北に延びる縦横路線を，後者については外周路線の使用を指定した。
3. 工事用作業車には，車体3方向に所属社名を明記，遠方からでも識別できるようにした。

◇車両登録制の骨子は◇

この制度の骨子は，登録の時点で各種法定基準にしたがった届出の有無をチェックし登録を受付け，その走行目的によって登録証，工事関係車両証，駐車証，通行証を区分して発行した。

◇具体的運用は◇

1. 登録証（ステッカー）は

常時構内を走行する車両が登録済車両であることを一目して判別できるようにマイカー，工事用作業車を対象にステッカーを交付し

- 四輪車にはフロントバンパー右側正面に
- 二輪車には前輪カバー右側表面に

それぞれ貼付することとした。

また所属区分は，ステッカーの色分けで行ない，（マイカーの当社従業員用と関連会社職員用の区

別）工事用作業車については一周り大きいステッカーを使用した。

2. 工事関係車両証は（図－1参照）

常時構内作業に従事している作業車を対象に，ステッカーに加えて交付するもので，走行時は必ず携行することとし，運転者に工事関係車両を運転しているという自覚と，安全運転意識の高揚をはかるため構内安全運転心得を併記した。

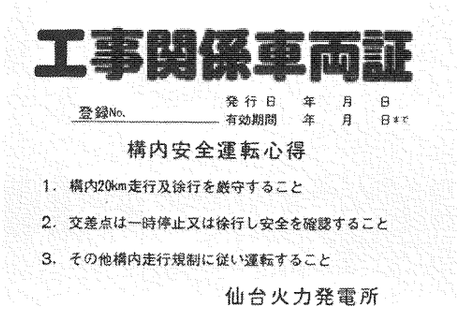
また，守衛所通過時には必ず提示し，裏面に記入された構内図にしたがい走行路線のチェックと安全運転の「ひと言」声かけが行なわれている。

3. 駐車証は（図－2参照）

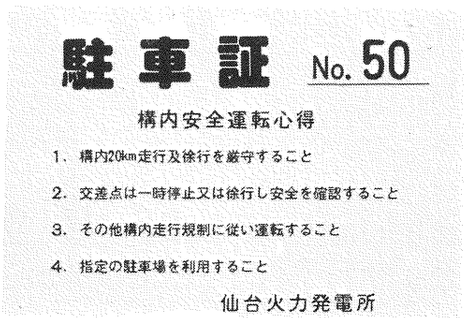
発電所への外来車にその都度交付するもので，交付の時点で駐車位置が明確に指示される。

4. 通行証は（図－3参照）

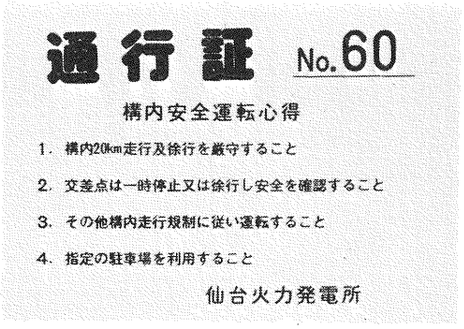
構内関連会社事業所への外来車に，前項3と区別



工事関係車両証（図－1）



駐車証（図－2）



通行証（図－3）

しその都度交付するもので，交付時に裏面記入の色別構内道路図によって，訪問先までの経路が指定され，それ以外の路線走行が禁止されている。

5. その他

登録更新は，工事関係車両は1年ごと，その他車両は3年ごとに行なうこととした。

導入後の成果について

以上が登録制のあらましであるが，導入して約半年を経過した現在，当初のとまどいも解消され整然とした円滑な運行がなされており，主な成果としては

1. 発注者と受注者が一体となって決めたルールを，それぞれの立場で守ろうと努力することを通し，より充実した一体感の醸成がはかられ，安全意識の高揚に大きな成果をもたらした。
2. 守衛所通過時点で
   1） 安全運転についてのひと声の呼びかけは，新しい近親感を芽生えさせ，相互信頼を一層強めることとなった。
   2） 構内にくる外来車に対し，キメ細かな運行指導ができるようになった。
3. 走行目的によって，構内道路の使用区分を明確にしたことは，道路標識の再整備と相まって，安全運転についての具体的指導が可能になった。

秋の

＜忘れ得ぬ新雪の景観＞



福島支店
労務課
久田　道夫

時，あたかも晩秋の頃，先輩とふたりで智恵子抄で有名な二本松の安達太良山に登山をした……もう8年前であろうか。

私は山登りらしきものを始めたのは，入社してからのことである。グループ登山が主であったが，この時は〝ぶらっ〟と山へ行こうという気持ちになり前夜決めた先輩と〝山の人〟になったのである。

食糧をたくさん積んで，一歩一歩頂上へ向かう足どりは，いつになく躍動していたと思う。途中，来るべきスキーシーズンに備えてゲレンデの整地をしている人や，ケーブルの調整などをしている人達を横目でみながら，もう枯れかかっている〝すすき〟にキッスを贈りながら前進，前進をしていった。頂上近くになりかけた頃，昨夜来の新雪に迎えられた。空のブルーと新雪のコントラストは，私の胸に一段とときめきを与え，そのダイゴ味は今もって忘れることが出来ない。

頂上にたどりついた時は昼近くで，リックサックから，缶ビールを取り出しての乾杯は，夜のビールの数倍以上であった。加えて母が作ってくれた〝つけもの〟の味も又格別……小休止のあと，ルートを鉄山へ向けて歩く，下からの風は冷たく一枚上着を厚くするほどであり，足もとの雪は一段と深くなっていった。二人で声をかけ合いめざす第二の地点へ，下界に広がる風景はこの時期に，こんな穏やかな日があろうかという絶景であった。

第二の目的地も踏破し，その晩は〝くろがね小屋〟に泊った。宿泊者は我々の2名，それに男女のカップルの4名であった。温泉にゆっくりと体を休め，重いリックの中からはるばる持参した〝いわきの酒〟を飲みかわし次第に高ら声となり，下手な歌がメロディーとなって次から次と出てきた。隣のカップルは，我々の歌に聞き惚れたのか，静かに眠りについていた。その晩は3～4回湯につかり朝を迎えた。頭と足どりは重々しく下山と合なった……。列車の待ち合せのため郡山で途中下車，駅前コーヒーショップで地方紙を読んでいるうちに，こんな記事が載っていた。「安達太良にて山頂結婚式」昨夜のカップルである。我々の無神経ぶりにあきれて，大いに失笑したことがある。

もう8年前の出来事でそれ以来数度となく安達太良山に登るが，あの新雪の絶景と豪快な飲みっぷりを思い出している。

ダイゴ味を語る



＜八甲田大岳の景観＞



八戸保修所
電気保修課
宮田　保雄

人を好きになった時，忘れ得ぬ思い出を持つ人と，数年越しの片思いが徒労に終えた時にそれを持つ人がいると思う。

私の場合は，もちろん後者である。その痛手を，ふとしたきっかけで山に求めた私は，弘前の百沢水害の秋，岩木山の登山口である荒れはてた百沢スキー場へ軽装で同僚と出発した。

成程，大自然の力はすさまじく，大岩奇岩をおしげもなく沢沿いに堀り起こし，とてもこの世の姿とは思えないものであった。

自然との調和を考慮しなかった事への神の怒りであり，正にここ数か月の自分の気持ちを如実に表現してくれた。

登山知識の毛頭ない私には登り進むにつれ，疲労の度を極め，もう後戻りが出来ない所まで達していた。すると急にあたりが真黒な雲に覆われ，一面大地をゆるがすような突風が吹き荒れた。

同僚はさして動ずる風もなく心に秘めたものがあるらしくじっと立ち留まり，私はブルブルふるえ始め何やら呪文さえ唱え出していた。

3メートルぐらいの人が立っているのを私はその時見たのである。

「ギャー」私は頂上に向かって一気に走った。頂上に着けば向こう側におりるリフトがある。

頂上のリフトにはすでに管理人の姿は見えなかったが，リフトは動いているので我々はこれに乗った。

しかし何んということであろうか。リフトは途中でバッタリと止ったのである。このリフトが最終便であった。

ついに我々はリフトから飛び降りた。本当に。数メートルはあっただろうか。

ほうほうの態で我々は無事下山した。山を甘く見た事と感傷が先行し，進退の判断すら出来なかった頃の思い出であり得がたい体験であったと思っている。

私は年に5回は八甲田大岳に登っているが特に秋の景観はすばらしい。自らの力を信じ苦しさに耐えて頂上にたどりついた時の感激，活力のみなぎり，正にダイゴ味にひたる時，初心の頃の大自然の戒めが今もって懐かしく想い起こされる。

〈54年度上半期の電力需給概況〉

電燈・電力合計で対前年同期比104.2%と堅調な伸び
―大口電力は回復基調に―

1. 54年度上半期の電力需要

○ 54年度上半期の販売電力量は，<表－1>のとおり電燈・電力合計で185億4,600万KWhとなり，対前年同期比は104.2%，計画比101.1%と，回復基調の大口電力に支えられ，堅調な実績となった。

これを用途別にみると，電燈では一時冷房需要が高稼動となった時期（6月）もあったが，昨年が猛暑に見舞れたことに反して，今夏の気温が例年よりやや低目に推移したことや，省エネルギーの浸透の影響などもあり，対前年同期比は103.4%の伸びにとどまった。一般電力についても民生用が電燈と同様の理由により，伸び悩んだことに加え，産業用においても公共投資関連の窯業，土石，建設関係が低調に推移した。また，農事用電力も，後半になってから豊水の影響で大幅な稼動減となり，結果して，一般電力計では対前年同期比102.7%の伸びにとどまった。

一方，大口電力は非鉄が前年実績を下回ったものの，機械およびセメントが前期に引続き好調に推移した。

さらに，ウエートの高い鉄鋼，化学などの素材産業が回復基調で推移したことなどにより，対前年同期化105.7%と堅調な伸びとなった。

54年上半期の需要実績

〈表－1〉 （単位：百万KWh）

種別＼区分		54/上実績（A）	53/上実績（B）	A/B (%)	54/上計画（C）	A/C (%)
電燈		4,485	4,338	103.4	4,436	101.1
電力	業務用	1,685	1,576	106.9	1,711	98.5
	小口	3,078	3,004	102.4	3,084	99.8
	大口	8,250	7,806	105.7	7,991	103.2
	その他	1,048	1,077	97.3	1,130	92.7
	計	14,061	13,463	104.4	13,916	101.0
電燈・電力合計		18,546	17,801	104.2	18,352	101.1

54年上半期の大口電力業種別動向

〈表－2〉 （単位：百万KWh・%）

	実績	対前年比	概要
鉱業	156	93.8	鉱石の枯渇化などのため低調に推移
紙，パルプ	741	101.1	雑誌向け用紙好調により若干の増
アンモニア肥料	126	109.4	輸出関係が好調
カーバイド	465	104.7	併産品のフエロシリコン，セメント関係好調により増
ソーダ	241	120.7	塩素及び塩素酸ソーダが紙パルプ，除草剤向けを中心に好調
その他化学	496	97.6	主力と化学肥料の不振により微減
セメント	504	108.7	中近東向けをはじめ輸出関係が好調
鉄鋼	2,296	111.6	棒鋼や主力の合金鉄を中心に順調な伸び
アルミニウム	163	74.5	設備凍結関連で大幅減
非鉄その他	733	96.3	一部需要家の炉修の影響で微減
機械	543	110.2	電気・輸送関係で増加
国鉄	496	107.4	貨物輸送の増により堅調な伸び
その他	1,290	108.8	食料品，ゴム関係堅調に推移
計	8,250	105.7	

2. 54年度上半期の供給実績

(1) 自社水力

上半期の出水状況は，前半の融雪期に，冬期間の少雪の影響を受けて渇水基調が続き，5～6月の3か月累計の出水率は86%と過去3番目の大幅な渇水となった。

その後7，8月には降雨量に恵まれ豊水となったものの，上半期の出水率も95.3%と渇水となった。

このため，発電量は当初計画を1億5,800万KWh下回り46億3,900万KWhとなった。

上半期出水率の推移

〈表－3〉 （単位：%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
83.6	90.2	84.0	111.3	130.5	82.8	95.3

(2) 自社火力

自社火力は，渇水による自社水力の発電減や他社水力からの受電減ならびに需要増に対応し焚増しをしたので，発電量は当初計画を6億2,300万KWh上回る105億1,600万KWhとなった。

(3) 他社受電

水力は自社同様，通期としては渇水に見舞われたこと，ならびに火力についても好出水時に受電抑制したことなどにより他社から受電量は当初計画を2億9,700万KWh下回る59億8,400万KWhとなった。

以上のとおり，上半期の供給実績は，需要動向を反映し，当初計画より1億4,500万KWh上回る205億1,900万KWh（前年比104.2%）となったが，新潟共同火力からの受電契約増（17.5万kW）や秋盛・北部幹線の完成など，供給体制の充実，強化により安定して電力を供給することができた。

一方，今夏は太平洋高気圧の勢力が弱く，盛夏期の気温が昨年（猛暑）に比べ低目であったことから，冷房・冷凍需要の伸びが低く，加えて省エネルギーの浸透などもあって，最大電力の更新はみられなかった。

なお，今年12月に運用開始が予定されている北海道・本州連系設備は9月3日から通電試験を行なっている。

54年度上期供給力実績

〈表－4〉 （単位：百万KWh）

種別＼区分			実績（A）	前年実績（B）	A/B	当初計画（C）	A/C
自社	水力	自流式	4,283	4,201	102.0	4,489	95.4
		貯水式	352	276	127.6	303	116.2
		揚水式	4	5	90.3	5	89.8
		計	4,639	4,482	103.5	4,797	96.7
	火力		10.516	10,283	102.3	9,893	106.3
	合計		15,155	14,765	102.6	14,690	103.2
他社受電			5,984	5,345	112.0	6,281	95.3
融通			△617	△421	146.8	△590	104.7
揚水用			△ 3	△ 5	57.4	△ 7	42.9
発受電合計			20,519	19,684	104.2	20,374	100.7
総合損失率			9.6	9.6	100.0	9.9	97.0
出水率			95.3	94.8	100.5	100.0	95.3

停年退職者のみなさん

ながい間ほんとうにご苦労さまでした



昭和54年10月
退職者

おわかれ4つのアンケート
① 入社年月日と入社時会社名
② 退職後のお住まい（TEL）
③ 在職中の思い出
④ 後輩にひとこと



八戸営業所　庶務課付

長　根　孝　一

1. 昭和24年4月1日（東北配電）
2. [redacted]
3. 30年間の過ぎ去った日々が，走馬燈のように脳裏をかけ回っています。すべて懐かしい思い出です。
4. なにごとにも前向きに着実に歩み続け，過去に悔いのないように頑張って下さい。



青森支店　用地課

本　堂　春　一

1. 昭和18年4月1日（東北配電）
2. [redacted]
3. 下北線，八甲田線雪害による巡視及び復旧作業を行なったこと。
4. 安全と健康に留意して明るい職場を築いて下さい。



小中野変電所

三　浦　轍次郎

1. 昭和17年9月12日（日本発送電）
2. [redacted]
3. チリ津浪で八戸変電所の復旧作業に従事したこと。
4. 明るい職場で安全と健康を第一にして頑張って下さい。



宮古営業所　配電課

佐々木　　清

1. 昭和16年4月1日（奥羽電灯）
2. [redacted]
3. 風水害，津波等すべての復旧作業に取り組んだことが思い出されます。
4. 健康と安全を第一に無災害職場の確立に努めて下さい。

1. 昭和21年10月5日（東北配電）
2. [redacted]
3. 33年間の在職中健康で過ごせたことが何よりの思い出となりました。
4. これからは，地域の皆さんに信頼される仕事が何よりも大切です。

水沢営業所　庶務課付

菅　野　　幹



1. 昭和21年12月1日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良き上司，同僚に恵まれたことや電気毛布の斡旋販売に予想もしない成果を得たことなどがあります。
4. 家族の協力，和が安全につながります。家族を含めて健康第一に頑張って下さい。

釜石営業所　庶務課付

佐々木　宏　志



1. 昭和21年4月12日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良き先輩，同僚，後輩に恵まれそれぞれの地において地域の方々とおつきあいが出来たことです。
4. 身心ともに健康で明るい生活を送って下さい。

秋田支店　用地課

戸　沢　隆　二



1. 昭和21年11月1日（東北配電）
2. [redacted]
3. 33年余の在職中いろいろな面で大そうお世話になりました。
4. 自己に厳しく，悔いのない人生を送って下さい。

秋田資材センター　配給課

佐　藤　勇　蔵



1. 昭和21年7月8日（東北配電）
2. [redacted]
3. 33年余の間1回の転勤も無く同じ職場で勤務が出来たことや，よき上司，先輩，同僚に恵まれた事が思い出です。
4. 健康と安全を第一に，明るい職場と家庭を築き，地域の皆さんから信頼される社員になって下さい。

秋田営業所　船川出張所

佐　藤　佐　市



1. 昭和16年6月1日（東北振興電力）
2. [redacted]
3. 戦中，戦後の物資不足時代に5キロの道を下駄履きで通勤したこと。
4. 健康と安全を第一に楽しい職場を作って下さい。

角館営業所

羽　場　弘　三



1. 昭和22年4月1日（日本発送電）
2. [redacted]
3. 昭和23年7月の水害で小滝第四発電所が埋没，復旧工事そして次から次へと自動化工事などが走馬灯のように浮かんできます。
4. なによりも健康第一です。そのうえ安全で明るい職場を築いて下さい。

本荘営業所　庶務課付

竹　内　文太郎





本荘営業所　配電課付

佐々木　　稔

1. 昭和15年８月23日（大日本電力）
2. [redacted]
3. 大八車を引き歩いた町々も今は自動車の波で過ぎし日々がすべて懐かしい思い出です。
4. 健康と安全に留意され，充実した日々をお過し下さい。



横手営業所　配電課付

高　橋　靖　二

1. 昭和22年７月14日（東北配電）
2. [redacted]
3. すべてが懐かしい思い出ですが，特に昭和31年に散宿所で一人勤務のとき，雪害復旧作業に取り組んだときのことです。
4. 健康で，充実した生活になるよう努力して下さい。



社長室　関連事業課勤務

佐　藤　　隆

1. 昭和21年10月18日（東北配電）
2. [redacted]
3. 離島のケーブル工事などハリのある仕事が出来たことです。
4. 仕事に誇りとファイトを持って前進して下さい。



社長室　関連事業課付

大　滝　幸　治

1. 昭和22年２月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. それぞれの任地でその時々の仕事と，人々との触れ合いが懐かしい思い出です。
4. 多様化社会にあって，ピンチに耐えられる趣味を育てて欲しい。



土木部　建築課付

谷　藤　千代廣

1. 昭和21年７月５日（日本発送電）
2. [redacted]
3. 過ぎ去った33年のすべて懐かしい思い出です。
4. 健康で充実した日々をお送り下さい。



工務部　通信課付

池　田　　博

1. 昭和22年12月15日（東北配電）
2. [redacted]
3. 過ぎ去ったすべてが懐かしい思い出です。
4. 大変お世話になりました。皆様の御多幸を心からお祈りいたします。



古川営業所　配電課

畠　山　　清

1. 昭和24年１月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 鳴子ダムが完成し貯水の瞬間，半俵山が崩れ鳴子～鬼首間交通遮断の中，配電線の復旧作業を徹夜で成し遂げた時の喜び。
4. 安全と健康を第一にして下さい。

1. 昭和25年11月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 株式名義書換登録業務が手作業の時代（昭和25年～昭和30年頃）期末など徹夜作業になり度々机の上で仮眠したこと。
4. 「自発能動」，元気で頑張って下さい。

宮城支店　総務課勤務

岩　松　　繁



1. 昭和21年１月15日（東北配電）
2. [redacted]
3. 石巻営業所在職時，２回の網地島ケーブル線張替工事にたづさわったこと。
4. エネルギー産業としての公共性を認識され仕事に取り組んで下さい。

白石営業所勤務

大　内　俊　夫



1. 昭和22年４月11日（東北配電）。
2. [redacted]
3. 苦楽を共に過ごした32年余，ひとつひとつが思い出です。
4. 健康で安全第一をモットーに，明るい「家庭」「職場」「社会」のために努力して下さい。

宮城支店　配電課

庄　子　　勉



1. 昭和22年２月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良き先輩，同僚に恵まれ数多くの人との出合いが思い出です。
4. 安全と健康を第一に，常に明るく誠意をもって仕事に励んで下さい。

酒田営業所付

野　口　　良



1. 昭和18年11月29日
2. [redacted]
3. 戦時中，建物疎開で２種免許を活かし真っ黒になって働いたこと，又６万Ｖ送電線建設にモンペにリュック，下駄ばきで食糧の補給に活躍したこと。
4. 社会にとって「無くてはならない人」になってほしいと思います。

新庄営業所　庶務課

嶺　　里　子



1. 昭和14年４月１日（両羽電気）
2. [redacted]
3. 災害復旧や資材センター新築移転を２日間で完了した事等がなつかしい思い出です。
4. 安全と健康に留意し視野を広め，どんな職場でも明るくなくてならない社員になって下さい。

山形資材センター　配給課

森　田　　明



1. 昭和22年９月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 上司に恵まれ同僚，後輩の皆さんと一緒に，その職場職場で努力したことが思い出です。
4. 健康と安全を第一に，積極的に業務を推進して下さい。

米沢営業所勤務

阿　部　誠　一





米沢営業所　庶務課勤務

高　橋　二　男

1. 昭和24年１月24日（東北配電）
2. [redacted]
3. 衛生関係の仕事で今は亡くなられましたが，ある奥さんに非常に感謝されたことが思い出です。
4. ローマは一日にして成らず。努力すれば何時の日か実が結びます。



米沢営業所　庶務課

清　水　糸　子

1. 昭和21年３月18日（東北配電）
2. [redacted]
3. 在職中のすべてがなつかしい思い出です。
4. 一日一日を大切にして，健康第一に頑張ってください。



いわき営業所　庶務課

猪　狩　悦　子

1. 昭和24年３月20日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良い上司，先輩に恵まれて楽しく働くことが出来ました。
4. 健康と安全に注意して明るい職場で精一ぱい頑張って下さい。



郡山営業所　配電課付

小　原　倉　義

1. 昭和16年３月30日（大日本電力）
2. [redacted]
3. 災害復旧などで，一致協力して頑張った事。
4. 社員としての誇りと，勇気をもって仕事にあたってください。



福島保修所付

八　巻　経　雄

1. 昭和21年８月12日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良き上司と先輩，同僚に恵まれ生き甲斐をもって働くことが出来，すべて懐かしい思い出です。
4. 身心とも健康で安全第一に明るい職場づくりに努めて下さい。



棚倉営業所　鮫川出張所

菊　田　勇　吉

1. 昭和16年３月４日（福島電灯）
2. [redacted]
3. 昭和23年９月アイオン台風による一の関水害の復旧作業の応援に従事した事。
4. 健康と安全を第一に明るい職場と家庭を築いて下さい。



白河営業所　営業課

星　　敏　夫

1. 昭和21年１月９日（東北配電）
2. [redacted]
3. 旧社屋に当地方で初の蛍光灯が灯ったこと。
4. 有言実行。

1. 昭和18年１月25日（東北配電）
2. [redacted]
3. 多くの方々のご指導と温かいご協力により楽しく仕事ができたことです。
4. 健康と安全を第一に，毎日を大切に過して下さい。

郡山営業所　庶務課

村　上　ト　キ



1. 昭和22年２月17日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良き上司，先輩，同僚に恵まれ過ごした32年間，すべてが思い出です。
4. 大変お世話になりました。今後のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

会津電力事務所　工務課勤務

星　野　栄　治



1. 昭和21年２月１日
2. [redacted]
3. 昭和30年の豪雪で相馬営業所で雪害復旧作業に頑張った事。
4. 健康で笑顔を忘れず，積極的に仕事に取り組んで下さい。

福島営業所　庶務課

加　藤　定　男



1. 昭和20年10月15日（東北配電）
2. [redacted]
3. 入社当時，市の目抜通りを大八車で電柱を運搬した事や30年新潟大火，36年第二室戸台風，39年新潟地震等で復旧作業に従事したこと。
4. 安全と健康に留意され明るい職場，平和な家庭を築いて下さい。

新潟営業所　営業課

前　田　精　一



1. 昭和22年11月24日（東北配電）
2. [redacted]
3. 水害や雪害の復旧作業と需要の伸びによる変電所新設に良き上司，先輩，同僚の方々の支援で需要家に喜ばれる仕事が出来たこと。
4. 健康と安全を先取りして絶対に災害を起さず明るい職場と家庭を築き上げて下さい。

三条営業所　下田出張所

増　井　正　夫



1. 昭和20年12月27日（東北配電）
2. [redacted]
3. 昭和24年に全社野球大会の準決勝戦で延長19回の末，山形支店に勝ったことなどが懐かしい思い出です。
4. 健康と安全を第一に，人の和を大切にして下さい。

新井営業所

松　島　一　男



1. 昭和17年５月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 降りしきる雪のなか除夜の鐘をききながら，配電線事故復旧作業に応援出動したこと。
4. 輝光赫徳。

白根営業所

木　島　　実





長岡保修所　電気保修課

田　村　敏　雄

1. 昭和22年７月14日（東北配電）
2. [redacted]
3. 長いようで本当に短かかった32年間，すべてが懐かしい思い出です。
4. 健康と安全に留意され，明るい職場と家庭を築いて下さい。



新潟営業所　営業課

波田野　満季子

1. 昭和17年８月１日（佐渡電灯）
2. [redacted]
3. 戦後，衣食住の不自由な時期に良き友を得て仕事や卓球，バレーに打ち込めたこと。
4. どんな小さな仕事にも誠心誠意であたり，人の和を大切にし，健康で笑いのたえない職場にして下さい。



佐渡営業所　庶務課

安　達　頼　雄

1. 昭和22年12月15日（東北配電）
2. [redacted]
3. 家族的であった電業所勤務当時のことが懐かしい思い出です。
4. 楽しく働き甲斐のある職場をつくって下さい。



高田営業所　配電課

閏　間　正　孝

1. 昭和14年４月１日（中央電気）
2. [redacted]
3. 良き上司，先輩そして後輩の方々と楽しく仕事ができた事です。
4. 健康はすべての基本です。安全に明るい家庭と職場づくりに努めて下さい。



池尻川発電所

古　市　義　保

1. 昭和14年４月１日（中央電気）
2. [redacted]
3. 在職40有余年すべてが懐かしく思い出されます。
4. 停年時に悔いのないよう誇りを持ち誠心誠意頑張って下さい。



長岡保修所勤務

小　沢　行　守

1. 昭和14年４月１日（北越水力）
2. [redacted]
3. 良き先輩，同僚の指導により40余年無事に勤め終え，すべてが懐かしい思い出です。
4. 健康と安全を第一に一日一日感謝することにより充実した日々を送り社業発展のため頑張って下さい。



糸魚川制御所

小　島　信　治

1. 昭和15年８月25日（中央電気）
2. [redacted]
3. 良き上司，良き先輩に恵まれ過ぎ去った39年間すべてが懐かしい思い出です。
4. 健康と安全を第一に一日一日を大切にして明るい職場と家庭を築いて下さい。

1. 昭和21年４月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 羽越水害で連日，送電線事故復旧にあたり無事送電出来たこと。
4. 安全を守るには，人一倍気を配り努力することめんどうがらずに確認することです。

新潟送電所　工事課勤務

相　田　富　治



1. 昭和19年７月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. 良き上司，良き同僚に恵まれ，毎日楽しく仕事ができたことです。
4. 健康と安全を大切に，明るい家庭を作って下さい。

新発田営業所　庶務課

山　本　チ　エ



1. 昭和23年６月10日（東北配電）
2. [redacted]
3. 昭和36年，38年の多雪災害時の需要家応待，ＯＣＲ移行準備で連日の残業など，苦労したことがなつかしく思い出されます。
4. 健康と安全を第一，そして明るい職場と家庭作りに心掛けて下さい。

長岡営業所　料金課

板　山　文　雄



1. 昭和22年12月15日（東北配電）
2. [redacted]
3. 昭和45年頃のサービス活動で，販売目標への達成と地域協調を一層深めたことです。
4. 職場規律の確立と人間の和を大切にし，健康と安全に留意して明るい家庭をつくってください。

佐渡営業所　庶務課

川　岬　和　夫

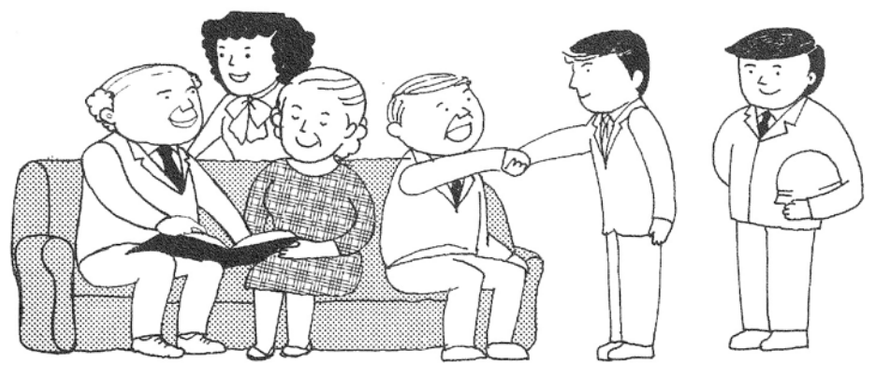


1. 昭和21年11月１日（東北配電）
2. [redacted]
3. よき先輩や同僚にめぐまれ，災害復旧あるいは地域対境活動等々，在職中のすべてが懐かしい思い出です。
4. 健康と安全に留意し，人の和を大切に誠意と熱意をもって，仕事に励んで下さい。

新潟支店勤務

戸　石　　宏





読者の広場

〈231号読後感〉

「土地の持つさまざまな顔」を読んで

横手営業所　営業課
千　田　三　郎

ゴルフをテレビで見ていて「あんな簡単なもの」と思っていたものだが，ある日友人に誘われて打ち放しの練習場に行ったところ真っすぐ飛ばないボールに驚いた。と同様に用地交渉に当たっては，時として何日間も現地に泊り込みそしてつきっきりで接渉しても首を縦に振ってもらえない事があると聞いて大変だなあとは思うものの，実際にどれだけの苦労があるのかは実感としてつかみきれるものではない。

しかし，「土地の持つさまざまな性質は裏を返せば人間の本性そのものが土地の形を借りて現われた性質に外ならない」ことは，そのような職務に携っている人でなければ，言えるものではないと思う。と同時にこれからの需要に見合う電力供給の為には，用地獲得は必須のものと思っている。しかしながら現在，住民の権利意識の高揚，原子力問題等を抱えた中で，その立場を理解してもらうのは，困難な事であると思わずにはいられない。

我々もサービス訪問等を通して，微力ではあるがこの問題を含め当社の立場を理解してもらえるよう，これまでにも増して努力しなければと思っている。

「次代層への啓蒙活動」の重要性を痛感

新潟支店ＰＲセンター
宮　川　智恵子

毎月社誌を手にして，表紙の感じのよさにいつも心なごむ思いです。東北地方の素朴な，人と人の暖かい心のふれあいが，いつも紙面いっぱいに広がっている。

社誌10月号の〝需要対策シリーズ〟では「次代層への啓蒙活動」というタイトルで，小・中学生に電気の正しい知識や〝省エネルギー〟を身につけてもらうための各種の活動が紹介されていた。私の職場であるグリーンプラザでも，毎年，小・中学校の夏休みや冬休みには「ラジオ工作教室」や「親と子の電気教室」など子供向けの各種講座を開催し，電気知識の啓蒙をはかってる。しかしグリーンプラザにある電気の実験コーナで「AとBをさわると，右手から体の中，左手を電気が通って音がでるよ」と説明をすると，「アッ！ビリッとした」と，体の中を電気が通ると聞いただけで，感電したような錯覚をおこし，手をひっこめてしまう子供がいる。子供にとって「電気はコワイ」というイメージが強いのでしょう。

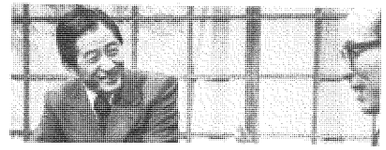
ともすると，大人だけに集中しがちな社誌の企画を，長期的視点に立ち小・中学生に向ける事の重要性を感じました。

テレビ

心にふれる話題を集めてさわやかに語る！

サンデー＊トーク

――ごきげんよう草柳です――



〈11月の予定〉

11月4日	川村　順子さん（全日本女性柔道チャンピオン）「女三四郎見参」
11月11日	酒井佐和子さん（料理研究家）「つけものの味」
11月18日	大谷　襞雄さん（山形県立天童高校教諭）「高校演劇日本一」
11月25日	大野　健一さん（〝海明〟電源本部長）「未来のエネルギー・波力発電」
12月2日	徳山　二郎さん（野村総合研究所専務取締役）「太平洋の世紀」

＜毎週日曜日＞

青森放送	午前	9：00～9：30
岩手放送	午前	10：00～10：30
秋田テレビ	午前	9：00～9：30
仙台放送	午前	10：00～10：30
山形放送	午前	9：20～9：50
福島テレビ	午前	10：00～10：30
新潟放送	午前	10：00～10：30

ご家庭の奥さまに役立つくらしの知恵や心なごむ話題などを松村満美子が明るく、楽しくひきだしておとどけする個性的な番組です。

満美子とともに
きょうもほがらか



特集・〝エネルギー〟

（11／19～11／22）

〈ゲスト〉高原須美子さん（評論家）
清水　嘉健さん（読売新聞記者）

毎週月曜日⇨金曜日・15分番組

青森テレビ	11時25分～11時40分
テレビ岩手	10時40分～10時55分
秋田放送	10時35分～10時50分
ミヤギテレビ	11時45分～12時00分
山形テレビ	11時30分～11時45分
福島中央テレビ	11時00分～11時15分
新潟放送	11時15分～11時30分

ラジオ

近石真介の「あじのあるはなし」

家庭の主婦にとって、食べものの話は健康、育児、教育同様非常に関心のあるものです。この番組は〝あじ〟（食べもの、料理）を切り口にして東北の歴史、生活、文化などの話題を幅広くかつ楽しく提供していくものです。



毎週月曜日⇨金曜日・5分番組

青森放送	10時10分～10時15分
岩手放送	13時30分～13時35分
秋田放送	12時00分～12時05分
東北放送	9時50分～9時55分
山形放送	8時50分～8時55分
ラジオ福島	10時45分～10時50分
新潟放送	10時40分～10時45分

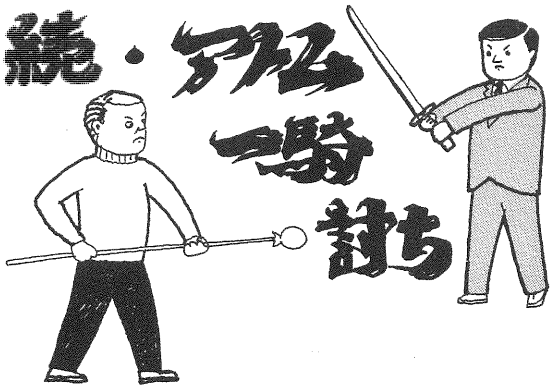
編集後記

「もしかしたら」と期待をこめてめくってきた'79のカレンダーもいつしか残るはあと一枚となった。今になっては変化の激しかった日のことよりも，やがて迎える新たな年，1980年の方向性に思いをめぐらしてみたい気持ちである。

社誌11月号では先月号に引き続き，〝エネルギー問題〟を取りあげた。これは新潟県内（長岡市・上越市）で10月17，18日に開かれた文化講演会の中から，東京工業大学矢島教授の講演要旨を紹介する。日増しに厳しさの度合いを増している，国内外のエネルギー情勢の理解に是非とも役立ててほしい。

霜月に入り東北のあちこちに初雪のたよりを聞くたびに，朝夕の冷え込みが一段と強く感じられる。こうした中で今日のエネルギー情勢を一人一人が的確に踏まえながら，各家庭においても省エネルギー対策を十二分に活かすなどにより，まもなく訪れる冬将軍に立ち向かって行きたいものである。（佐　藤）

昭和五十四年十一月十日発行　発行所　東北電力株式会社情報課　発行者　尾形順一郎　印刷株今野印刷所



核の利用は平和だけ

秋の夜長、ブランデーをなめながらテレビの戦争映画を見ていたアトム小父さんとD君。

「戦争は面白いしカッコイイし」

「映画の戦争は面白いが、実際の戦争は悲惨以外の何物でもない。

私が中学2年の時、戦争が終ったが、私の兄もだし、近所の人も大勢戦死した。戦争は映画の世界だけでたくさんだ！」

「戦争を知らない僕たちですが、平和は有難いですね」

「まったくだ。自分の国を守る権利は否定しないが、武力で自国の主張を通すなんて許せない」

「しかし平和を論ずるとですね。原発で核兵器の材料が作れるんですよ。僕はその点疑問だ」

「たしかに発電用原子炉から取り出したプルトニウムで核爆発をし、国際世論の袋だたきになった国があったね。しかし日本の場合、技術的には勿論、法律的には核兵器につながることは有り得ない」

「法律で決めてるんですか？」

「日本では原子力基本法、第二条で、**原子力の研究、開発及び利用は、平和の目的に限り**、民主的な運営の下に、自主的にこれを行なうものとし、その成果を公開し、進んで国際協力に資するものとする。と明記してあるよ」

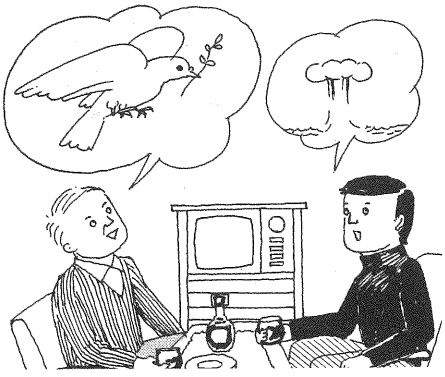
「しかし法を無視してやろうという者が現れたら大変だ」

「日本で発電用核燃料は100％輸入だし、これは全部〝国際原子力機関〟に登録されており、時々国際査察を受けて、重量、所在をすべて監視されてる。日本での査察官には日本人はなれないんだ。

この査察の目をくぐっての核兵器転用は不可能だ」

「しかし国際世論を無視し強引に国際査察を拒否して、核兵器に転用することだってできますよ」

「発電用核燃料のウラン235の濃度が3％以下なのは知っているだろう。これが5％以下では理論上絶対爆発しない。ただ20％位の濃度のウランが1トン位有れば爆発するが、これじゃ爆弾の効率は悪いし、重いし、大きいし、兵器としては使いものにならんだろう。実際の核兵器はウラン235の濃度が100％位の物を10キログラム以上使う。この濃度を高めるには巨大な工場と大変な技術が必要だから、コッソリなんて無理だね」



「だけど原発ではプルトニウムという核物質もできますよ」

「原子力発電所でできるプルトニウムはウランの中に混っているから、そのままでは使えないよ。これを再処理工場で処理し、単独に取り出すんだが、これも国際査察を受けるし、また軽水炉でできるプルトニウムは純度は60％位で、大量に有れば理論上は爆発するが、これで作った核兵器も超大形で使い物にならんだろう。外国では核兵器用プルトニウムは、専用の原子炉で作っているよ」

「この間、米国でウランが盗まれて大騒ぎでしたね」

「あれは潜水艦の原子炉用、高濃縮ウランだから、そのまま核兵器に転用されると大騒ぎになった。

もっとも日本にはそんな高濃度のウランはないから大丈夫だ」

「核兵器は僕たちと無縁のものとしたいですね」

「私も核兵器は製造、使用共絶対反対だ！　しかし核兵器と核の平和利用を混同して、これを口実に原子力発電まで拒否しようとする動きがあるが、これは大きな間違いだと思うよ」